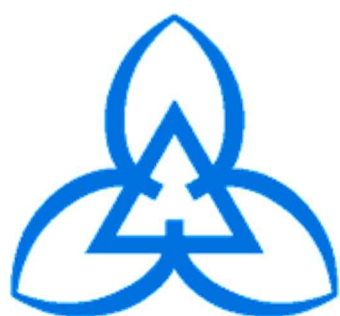


令和5年度

大山崎町教育委員会事業報告書

(令和4年度対象)



令和5年8月

大山崎町教育委員会

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、令和 4 年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、作成したものです。

大山崎町教育委員会は、この点検・評価を踏まえ、今日的な教育課題や要請に対応した教育行政の推進に努力していきます。

大山崎町教育委員会

教育委員名簿

職名	氏名
教 育 長	馬 場 信 行
職 務 代 理 者	吉 川 栄 一
委 員	南 顕 融
委 員	宮 本 佳 子
委 員	湊 田 瑞 希

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会の活動状況

1. 会議の開催状況

No.	会議名	開催日	議事（審議）案件
1	4月定例会	令和4年4月22日	諸報告について （第34号議案）教育財産の用途の廃止及び変更について （第35号議案）重要な教育財産の取得を申し出ることにについて
2	5月定例会	令和4年5月24日	諸報告について （第36号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第37号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について
3	5月臨時会 （書面開催）	令和4年5月26日 （資料発送日）	（第38号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（大山崎小学校給食棟整備工事請負契約について）について （第39号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（大山崎中学校給食棟整備工事請負契約について）について
4	6月定例会	令和4年6月28日	諸報告について
5	7月定例会	令和4年7月26日	諸報告について
6	8月臨時会	令和4年8月22日	（第40号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（財産（大山崎中学校等給食棟整備付属備品）の取得について）について
7	8月定例会	令和4年8月31日	諸報告について
8	9月定例会	令和4年9月27日	諸報告について
9	10月定例会	令和4年10月26日	諸報告について
10	11月定例会	令和4年11月30日	諸報告について （第41号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（財産（大山崎小学校給食棟整備付帯備品）の取得について）について （第42号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（財産（大山崎中学校等給食棟整備付属備品）の取得の変更について）について
11	12月定例会	令和4年12月21日	諸報告について
12	1月定例会	令和5年1月26日	諸報告について

13	2月定例会	令和5年2月27日	<p>諸報告について</p> <p>(第1号議案) 大山崎町議会の議決を経るべき議案(大山崎町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について) について</p> <p>(第2号議案) 令和5年度小学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について</p>
14	2月臨時会	令和5年2月27日	<p>(第3号議案) 教職員管理職の人事異動について</p>
15	3月定例会	令和5年3月24日	<p>諸報告について</p> <p>(第4号議案) 令和5年度学校教育・社会教育の指導の重点を定めることについて</p> <p>(第5号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第6号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第7号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第8号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第9号議案) 大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第10号議案) 大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第11号議案) 大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第12号議案) 大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第13号議案) 大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について</p> <p>(第14号議案) 大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について</p> <p>(第15号議案) 大山崎町社会教育委員の委嘱について</p> <p>(第16号議案) 大山崎町社会教育委員の委嘱について</p> <p>(第17号議案) 大山崎町社会教育委員の委嘱について</p> <p>(第18号議案) 大山崎町社会教育委員の委嘱について</p> <p>(第19号議案) 大山崎町社会教育委員の委嘱について</p>

			(第20号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について
16	3月臨時会	令和5年3月24日	(第21号議案)大山崎町教育委員会事務局職員の任免について

2. その他の会議や活動など

(1) 総合教育会議（町長が招集し、会議の構成員として教育長及び教育委員が出席）

	会議名	開催日	協議・調整事項
1	第1回	令和5年2月27日	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度教育予算について 複合施設整備の概要について

(2) 教育委員の主な活動

教育委員会関係行事への参加（教育長のみが出席したものを除く）

- ・学校訪問（授業参観、懇談等）
- ・学校給食棟見学会

その他新型コロナウイルス感染予防措置として、例年の参加行事は中止または規模縮小（来賓なし）となったものあり

(3) 委員研修

	研修名	開催日
1	乙訓教育委員会連合会研修会（京都市）	令和4年5月9日（月）
2	京都府市町村教育委員会連合会研修会（京都市）	令和4年5月30日（月）
3	京都府内市町村教育委員会研修会（京都市）	令和4年11月11日（金）
4	乙訓教育委員会連合会教育委員研修会（長岡京市）	令和5年2月20日（月）

2 教育行政事務に係る点検・評価

(1) 点検・評価の対象及び方法

令和4年度「指導の重点」に位置付けられ、教育委員会が所管又は教育委員会が関わる項目について、外部評価対象事業とし、委員の方から事業評価を頂くとともに様々な意見・助言等をいただきました。

(2) 評価委員

氏名	役職等
加納 信行	元大山崎町教育委員会指導主事（元学校長）
芦生 光夫	元大山崎町教育委員会指導主事（元学校長）

3 事業評価シート

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標1】質の高い学力の育成 基礎・基本的な「知識・技能」の確実な習得と知識・技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養という、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。</p>		
<p>事務事業名</p>	<p>学力向上推進事業Ⅰ</p>	<p>担当部署</p>	<p>学校教育課</p>
<p>事業実績</p>	<p>① 子どものための京都式少人数教育の実施 <大山崎小学校> 5年生で少人数学級を実施した。 <第二大山崎小学校> 5・6年生で少人数学級を実施した。 <大山崎中学校> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生で少人数学級を実施した。 ・ 2年生の数学科・英語科でチームティーチングを実施した。このほか、英語科において小中連携加配を配置し、小学校6年生でチームティーチングを実施した。 ② 学力向上に向けた学校独自の取組 <大山崎小学校> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山っ子検定の実施：国語・算数における学年での達成目標を定め、3学期に検定試験問題に挑戦させた。全員合格を目標に取り組んだが、結果によっては頑張りプリントで習熟を図った。 ・ 補習については全学級が個に応じて実施し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。 ・ マスターウィークチェック：家庭学習や生活習慣についてのチェック週間を学期に1回設けて取り組んだ。 <第二大山崎小学校> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝学習では、月曜：読書・水曜：算数・金曜：国語と全校で取り組む内容を決めて、基礎的・基本的な学習の定着を図った。 ・ 学期毎のまとめテストでは、指導内容の定着度を検証し、指導方法の改善に取り組んだ。 ・ 補習については全学級が個に応じて実施し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。 ・ 学習支援員配置事業として、4年生計10名の児童を対象に算数の補習を実施した。 【実施日】5月1日～3月24日のうち20日間 <大山崎中学校> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝学習では、各教科の既習事項の反復学習や朝読書等を取り入れ、基礎的、基本的な学習内容の定着を図った。 ・ 学習支援員配置事業として、次の事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 1年生15人を対象に国語、数学、英語の補充学習を実施した 【実施日】7月26日（火）～2月22日（水）のうち30日間 ✓ 2年生14人の生徒を対象に国語、数学、英語の補充学習を実施 </p>		

	<p>した。</p> <p>【実施日】7月26日(火)～2月15日(水)のうち17日間</p> <p>③ 英語教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 英検ジュニアの実施：小学校5・6年生を対象とし、町中央公民館を会場として2回実施した。検定料は全額町補助とし、1人1回分を無料とした。 【参加児童】1回目47名、2回目31名、延べ78名 【実施日】9月10日(土)、2月4日(土) 英語検定の実施：一次試験について、中学校を準会場として英語検定を年3回実施した。検定費用として一人1回、町からの補助(一律1,500円補助)。 【参加児童】延べ169名 【実施日】5月27日(金)、9月30日(金)、1月20日(金) 小学校英語専科指導加配の配置 大山崎小学校1～5年、第二大山崎小学校1～5年において、外国語・外国語活動の授業を担当 ALTとTT授業 小中連携加配の配置 町立小学校6年生の外国語の授業を担当 ALTとTT授業
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 少人数学級及び少人数授業により、個に応じた適切できめ細かい学習指導や生徒指導が可能になり、落ち着いて学習に取り組む姿勢が作られ、児童生徒の学習への関心を高めることができた。 英語科の小中連携加配の効用として、小学校の外国語科の充実と中学校での学習規律をはじめとする学校生活への円滑な接続、効果的な指導となっている。 小学校では、専門性のある中学校教員やALTが配置されていることで、質の高い英語教育が安定して実施することができた。また、児童は意欲的に学習に取り組んだ。 英語専科と小中連携加配により、小学校5・6年生の外国語、3・4年生の外国語活動が円滑に進められた。 小学校での山っ子検定や学期ごとのまとめテストでは、各児童の学習の定着度合いが把握でき、指導に役立つとともに児童の学習への意欲向上につながった。 学習支援員配置事業では、長期休業日などを利用し、小中学校とも基礎学力の定着を図ることができた。 平成28年度から小学生も対象として取り組んだ英語検定の実施は、多くの児童生徒の学習意欲の向上につながっている。特に、英検ジュニアの検定費補助は、受験人数増加への効果が大きかった。
<p>課 題 認 識</p>	<ul style="list-style-type: none"> より効果的に少人数教育を進めるため、小中学校の連携を図りながら、各種の学力診断テストなどを活用し、学力の向上の視点で分析及び検証しながらそのあり方を研究する必要がある。 学力課題の大きい学年もあり、小中連携を生かし、課題把握及び学習指導・生徒指導の両面で計画的・組織的な指導が必要である。

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 成果に述べられている通り、それぞれの学校、学年で、京都式少人数教育の活用や町及び学校独自の取組にて、児童生徒一人一人の個に応じた、よりきめ細やかな学習指導や生徒指導等ができるように工夫され、学習への関心を高め、学力伸長に努めていると評価している。 • 今後は、課題認識に述べられているように、個々の児童生徒の学力を把握し、これらを活用し、更なる確かな学力の向上と定着に主眼を置き、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を実践されることを願う。 • 特に、定着や伸長に課題が見られる児童生徒には、その手立てを施し、確かな学力向上に努めてほしい。 • 児童生徒の学習意欲と好奇心を一層喚起するため、小学校における教科制のさらなる実施や、専門性のある教員の配置など、2小学校、1中学校という条件を生かし、共通した内容や系統的な取組を設定して取り組めるものがないか検討されてはどうか。 • 英語科における小中連携加配や小学校における英語専科指導加配の配置活用は、小学校における英語教育の充実と小中9年間を踏まえた英語教育の定着と向上に寄与しているといえ、継続を願う。 • 大山崎小学校での「山っこ検定」をはじめ、すべての児童生徒に対して確かな学力の定着に向けた、各小中学校での取組は評価でき、今後も継続させてほしい。 • 英検ジュニアの実施や英語検定への補助は、英語のみならず、児童生徒への学習意欲の向上という観点からも良い制度であり、継続を願う。
---------------------	---

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標1】質の高い学力の育成 基礎・基本的な「知識・技能」の確実な習得と知識・技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養という、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。		
事務事業名	学力向上推進事業Ⅱ	担当部署	学校教育課
事業実績	① 標準授業時数の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準授業時数を下回る学年はなく、確保できた。 ・ 学校行事等は、計画どおり実施できるよう各校工夫を講じて取り組んだ。 ② 学力向上に向けた教科補習の取組 <p><小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程外の取組として毎日の朝学習を実施した。 ・ 夏季休業中の補習についても2日間設定して取り組んだ。 ・ 放課後等の学習指導は必要に応じて個別指導を実施したほか、授業の中での机間指導や授業間の時間などで補った。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト前に教科別の補習学習を実施した。 ・ 3年生では、2学期の終わりから放課後、進路保障に向けた自主学習に取り組み、生徒からの質問等については個別に教員が対応した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的なカリキュラムの実施により、授業時数を確保し、学力保障や進路保障につながった。 ・ 学力向上に向けた取組ができるよう、補習学習や行事のあり方を工夫できた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時数の確保は、学力の保障や向上、進路保障において必須要件であるため、授業時数の確保を最優先し、他の行事を効果的に設定する必要がある。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時数の確保を念頭に、感染対策をしっかりとりながら、学校全体や学年で取り組む行事（運動会、宿泊学習等）の持つ意義と可能性を追求し取り組まれたことは評価したい。 ・ 授業時数の確保は、行事との兼ね合いを含め難しい面もあると思われるが、教科学習をはじめ、児童生徒が充実した学校生活を送れるような諸活動の計画と時間設定を望む。 ・ 学力向上に向けて、朝学習、放課後、夏休み等において補習の取組は大切にしてほしい。特に、学習に課題のある児童生徒への効果的な補習方法について、その在り方を含め検討し取り組んでいくことが望ましい。 ・ 「町指導の重点」に掲げている、資質・能力の三つの柱〔学び・自立・つながり〕の育成に関わった力を育む授業の在り方について、教員の研修と実践及び検証を望む。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標4】健やかな体の育成と体力の向上 生き生きとたくましく生きるため、体育・スポーツ活動に親しむ習慣や望ましい食習慣など、健康的な生活を実践する態度を育成する。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅠ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 小学校陸上交歓記録会（両小学校の6年生対象） 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、各校で実施した。</p> <p>② 小学校マラソン大会 ＜大山崎小学校＞11月17日（木） ＜第二大山崎小学校＞11月16日（水）</p> <p>③ 京都府教育委員会「体育指導力向上指定校」 第二大山崎小学校は「体育指導力向上指定校」となり、4・6年生の児童を対象にICTを活用した授業を実践した。</p> <p>④ 外部指導者の活用 大山崎中学校では、フェンシング部と野球部において外部指導者（2名）を活用した。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> マラソン大会は年中行事となっており、体力・運動能力を高める機会となっている。 「体育指導力向上指定校」となった第二大山崎小学校では、ICTを有効に活用し、児童の運動技能を高めることができた。 外部指導者を活用した大山崎中学校では、生徒の運動技能をより一層高めることができた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 小学校陸上交歓記録会は、新型コロナウイルス感染症のために2校間の交流ができなかったが、本記録会の趣旨を考えると同感染症収束後は2校間で実施することが望ましい。 第二大山崎小学校では、「体育指導力向上指定校」として得られた知見を、他学年に波及させていく必要がある。 外部指導者を活用した大山崎中学校では、フェンシング部・野球部だけではなく、競技種目の拡充を考える必要がある。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響等により、「小学校陸上交歓会」が2校集まって実施できなかったのは残念であるが、各校ともできる限りの内容で実施されことや、これに限らず、述べられているような成果を得られており、課題認識も的確と思われ、次年度の実施を期待する。 大山崎中学校の部活動外部指導者の実施については、今後の部活動の在り方を含め一層検討されたい。 		

令和4年度指導の重点における目標	<p>【重点目標1】質の高い学力の育成 基礎・基本的な「知識・技能」の確実な習得と知識・技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養という、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。</p> <p>【重点目標3】規範意識の醸成や他者への思いやりなど豊かな心の育成 学校や社会のきまり・ルールを守り、社会の一員としての自覚を深めるとともに、よりよく生きようとする力の源泉となる豊かな心をはぐくむ。</p>		
事務事業名	特色ある学校づくりⅡ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 「KYO発見 仕事・文化体験活動」推進事業 <大山崎小学校 4年生> 【実施日】5月～11月 【実施内容】大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫</p> <p><第二大山崎小学校 4年生> 【実施日】12月21日(水) 【実施内容】生け花体験</p> <p><大山崎中学校 2年生> 毎年キャリア教育の一貫として「職場体験活動」を11月上旬に2日間で実施していた。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、前年度に引き続き中止となったが、事業所と生徒をICT機器で繋ぎ、双方向によるリモート学習を実施した。</p> <p>② フェンシング体験 毎年6月上旬に両小学校3年生を対象に実施していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、前年度に引き続き中止した。</p> <p>③ もうすぐ1年生体験入学推進事業 大山崎小学校は学校紹介DVD作成配布。第二大山崎小学校は2つの園と体験入学を実施した。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 大山崎小学校では、エゴマ体験事業でのクッキング等は実施できなかったが、歴史的に本町と関わりの深いエゴマの栽培・搾油等を通じて歴史・文化的学習の機会を提供することができた。 第二大山崎小学校では、生け花体験を実施し、伝統的な文化に触れる機会となった。 大山崎中学校のキャリア学習(リモート学習)では、生徒が職業を身近に感じることができた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 「KYO発見 仕事・文化体験活動」は、得たものや学んだことを生かし、地域の伝統文化への関心や職業観の醸成が図られる貴重な活動である。新型コロナウイルス感染症収束後には、通常の体験学習が実施できることを期待している。 中学校の「職場体験活動」は、今年度も新型コロナウイルスの影響で中止となった。受け入れる事業所も減少しているが、実体験をする貴重な活動とな 		

	<p>っているため、再開する方向で検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フェンシング体験授業は、今年度も中止することとなったが、次年度実施する際には、対象学年を工夫するなど、フェンシング競技への関心を高める活動とする必要がある。 • 体験入学推進事業は、新型コロナウイルス感染症が収束した時点で取組を復活させ、保育所・幼稚園などと小学校との円滑な接続について充実させる必要がある。
<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルス感染症対策により、中止となった事業があるが、エゴマ体験事業は児童の記憶にも残っており、成果の通りと思われる。 • 地域の伝統文化への関心や地域の資材を活かした学習という観点からも、小学校間では、取組内容に共通のものも取り入れてはどうか。 • 中学校の職場体験授業は工夫された形態で実施されていると思われ、その形態を模索しながら効果ある実施継続を望む。 • 「フェンシング体験授業」をはじめ、コロナ禍の影響で中止となった事業については、課題解決を図りながら、効果あるものを目指しての復活を望む。

令和4年度指導の重点における目標	【重点目標5】信頼を高める学校づくりの推進 家庭や地域社会と連携・協働して、信頼に応える学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。														
事務事業名	特色ある学校づくりⅢ	担当部署	学校教育課												
事業実績	<p>◇休業日等を活用した授業・行事等の実施</p> <p>① 休業日等の授業・・・振替休日あり</p> <p><大山崎小学校></p> <table border="1" data-bbox="440 631 1353 766"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月14日(土)</td> <td>授業参観、学校説明会、PTA総会</td> </tr> <tr> <td>10月15日(土)</td> <td>運動会</td> </tr> </tbody> </table> <p><第二大山崎小学校></p> <table border="1" data-bbox="440 855 1353 990"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月3日(土)</td> <td>授業参観、学校説明会 ※PTA教育講演会は6月実施</td> </tr> <tr> <td>10月15日(土)</td> <td>運動会</td> </tr> </tbody> </table> <p><大山崎中学校></p> <p>例年6月上旬に部活動懇談・参観等を実施していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止</p> <p>② 教育課程外としての休業日等を活用</p> <p><小学校></p> <p>学年親子交流会は実施しなかった。</p> <p><中学校></p> <p>部活動</p> <p>学校だよりやホームページなどを活用した、学校から家庭や地域社会への情報発信を行なった。</p>			実施日	内容	5月14日(土)	授業参観、学校説明会、PTA総会	10月15日(土)	運動会	実施日	内容	9月3日(土)	授業参観、学校説明会 ※PTA教育講演会は6月実施	10月15日(土)	運動会
実施日	内容														
5月14日(土)	授業参観、学校説明会、PTA総会														
10月15日(土)	運動会														
実施日	内容														
9月3日(土)	授業参観、学校説明会 ※PTA教育講演会は6月実施														
10月15日(土)	運動会														
成果	<ul style="list-style-type: none"> 休業日等を活用することで、保護者・地域の方に開かれた取組となり、多くの方が参観された。 保護者、児童生徒のアンケートの実施や、学校評価を学校だよりに掲載するなど、信頼に応える学校づくりを推進することができた。 														
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ団体や高等学校の説明会など、各種団体の催しと重なり、児童生徒の出席を確保するための日程調整が難しい状況にある。 働き方改革の観点から、教職員の勤務状況等も考慮しながら、土曜日の活用を考えていく必要がある。 地域の活動と連携・協働し、地域のコミュニティの場となる学校づくりの構築を検討していく必要がある。 														

評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none">• 成果にも述べられているように、土曜授業をはじめ、教育活動実践の場を公開することは、保護者への学校教育の理解と協力を訴える大きな場であり、その意義は大きいと思われるため、今後も実施されることを望む。• 児童生徒の休日の過ごし方が多様化していること、社会教育団体との調整や教職員への負担など、課題点も多くあると思われるが、今後も実施方向の検討を望む。
-------------	--

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標1】質の高い学力の育成 基礎・基本的な「知識・技能」の確実な習得と知識・技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養という、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。</p> <p>【重点目標10】家庭の教育力の向上 家庭教育の自主性を尊重しつつ、教育の出発点である家庭の教育力を高めるための支援を推進する。</p>		
<p>事務事業名</p>	<p>特色ある学校づくりⅣ</p>	<p>担当部署</p>	<p>学校教育課</p>
<p>事業実績</p>	<p>① リーフレット「大山崎っ子できます10」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校で身に付けてほしい10項目の取組を定め、達成するために小学校低学年、中学年、高学年、中学生の4段階に分け、学年ごとに目当てを示した「大山崎っ子 できます10」を作成した。 ・ 全児童生徒への配布と各教室での掲示や学校だよりでの紹介を行い、毎日の生活で意識することや、保護者への啓発と協力依頼を実施した。 ・ 学校評価における児童生徒や保護者へのアンケート調査の項目に盛り込み、目標項目に対して達成状況を把握した。 <p>② 作品応募の成績や部活動の実績（抜粋：掲載以外にも多数あり）</p> <p><大山崎小学校></p> <p>「全国教育美術展」 入選7名、佳作22名</p> <p><第二大山崎小学校></p> <p>「愛鳥週間ポスターコンクール」 佳作3名</p> <p>「緑化週間ポスターコンクール」 奨励賞1名 佳作3名</p> <p>「読書感想文コンクール」 佳作2名</p> <p>「全国教育美術展」 入選6名、佳作15名</p> <p><大山崎中学校></p> <p>「京都府吹奏楽コンクール中学校の部A」 金賞</p> <p>「全日本中学生水の作文コンクール」 優秀賞1名 佳作2名</p> <p>「中学生作文コンクール都道府県別賞」 佳作1名</p> <p>「年賀状思い出大賞」 大賞1名</p> <p>「全国小・中学校作文コンクール」 佳作2名</p> <p>「土砂災害防止に関する作文コンクール」 府代表作品1名</p> <p>「フェンシング アジアジュニア・カデ ウズベキスタン大会」 個人3位 1名</p> <p>乙訓夏季大会（団体） バレーボール女子 優勝 ソフトテニス男子 準優勝</p> <p>乙訓新人大会（団体） サッカー 優勝 バレーボール女子 準優勝</p> <p>※ 部活動の乙訓夏季・新人大会の個人成績は未掲載</p>		

成 果	<ul style="list-style-type: none"> • 本町教育振興基本計画を踏まえ、日々の生活の中で大切にしたいことや9年間を通して醸成したい項目を統一して掲げ、各家庭へも啓発したことにより、これに基づき一貫性のある指導と協力が得られ、挨拶や時間を大切にすなどの項目をはじめ効果が上がっている。 • コロナ禍以前の作品応募数と比較するとやや減少したが、学習や部活動によって得た能力を発揮することができた。また、応募結果や大会結果を児童生徒の前で伝達顕彰することで、次年度につながる取組となっている。
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> • 教職員への周知や保護者への啓発をはじめ、学校教育だけではなく、保護者や地域住民を含め広く広報活動が必要である。 • 教科内の時間において応募作品に取り組むことは難しく、家庭での課題学習となり、全員が取り組むことや作品へのアドバイスができない状況となっている。
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> • 「大山崎っ子できます10」は、本町の教育振興計画を踏まえ、その取り組みが始まって10年が経過したが、小中9年間を通した一貫性のある目標が掲げてあり、学校教育と家庭教育との協働が図られるなど、効果あるものとなっているので、課題認識に述べられているように、保護者や地域住民を含めた一層の活用を願う。 • 作品の各種団体への応募数も平成4年度は増えており、児童生徒が個々に持つ能力の発見やその充実向上に向け、応募ができるよう更なる支援されることを願う。

令和4年度指導の重点における目標	【重点目標6】安全安心で、いじめのない楽しい学校づくりの推進 安全な環境の中で、いじめのない楽しい学校生活が送れるよう、家庭・地域社会と連携した取組を推進する。		
事務事業名	いじめ問題への取組	担当部署	学校教育課
事業実績	① 「いじめ問題への取組の徹底」 全校児童生徒を対象とした3回（各学期1回）のいじめ問題調査等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査方法：アンケート及び面接調査による実態把握 ・ 調査結果を学校評議員やPTA本部役員に説明 ※ 3回目は2回目調査対象への教員による追跡調査（日常の観察等） ② 人権教育の学校の取組 <ul style="list-style-type: none"> <大山崎小学校> 人権週間の設定、学年毎の人権学習、学年集会、人権の花 <第二大山崎小学校> 人権週間の設定、学年毎の人権学習、人権の花 <大山崎中学校> 人権週間の設定、学年毎の人権学習、教育相談の実施（1学期・2学期） 同和問題をテーマにした校内研修 ③ 学校におけるいじめ防止基本方針の研修・実施（平成26年4月より実施） 及び校内いじめ防止対策委員会の定期的な開催（概ね隔週開催） ④ 町いじめ防止対策推進委員会（専門職5人）を年2回開催 乙訓いじめ防止連絡協議会（乙訓の小中学校生徒指導主任）を年1回開催		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート及び面接による調査により、児童生徒の「いやな思いをした」という実態の把握や確認ができ、適切な指導をすることができた。 ・ 年間の認知件数は、令和3年度と比較し増加した。個々のいじめでは、深刻なケースもあったが、組織的対応等により重大事態までには至らず終わることができた。 ・ 学校におけるいじめ防止基本方針に沿っての年度当初の確認や校内いじめ防止対策委員会の定期的な開催により、教員のいじめに関する意識が一層高まっている。 ・ 新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら、各校で工夫した人権学習の取組を実施することができた。また、新型コロナウイルス感染症について差別や偏見を生まないための学習に取り組んだ。 ・ 町いじめ防止対策推進委員会では、深刻なケースについて適切な指導助言を受けることができた。 ・ 乙訓いじめ防止連絡協議会では、各校の「いじめ防止基本方針」について、再確認することができた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめは、どの学校・学級でも起こり得るものであり、どの児童生徒でもいじめる側、いじめられる側、発見する側になるという認識のもと、教員の人権感覚を高めるとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期対応をはじめ、 		

	<p>いじめを許さない学校づくりへの組織的な取組の徹底が引き続き重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症にかかる差別や偏見、いじめにつながらないよう、今後も丁寧な指導が求められる。
<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成果に述べられているように、令和4年度においても、いじめ調査だけではなく、日頃からの適切な対応と指導ができていることは、すべての児童生徒が安心して楽しい学校生活を送れる基盤となっていると思われ、引き続きの実践を願う。 いじめにかかる深刻なケースもあったようだが、重大事態に至ることがなかったのは、組織的に素早い適切な対応ができたのではないかとと思われる。 新型コロナウイルス感染症の対策をとりながらも、引き続き、児童生徒への人権意識の向上やいじめに対する正しい認識と教職員の鋭い人権意識、児童生徒への理解力と指導力が常に保たれるよう、各校においても計画的な研修の実施を願う。 課題認識の通り、教職員の人権意識の高揚を高め、引き続き「いじめはいつ起こるかは分からない」ことを念頭に、教職員の日頃の観察やいじめアンケート及び面接を活用することで、いじめの早期発見・早期指導につなげるとともに、いじめを起こさせない適切な指導と対応を願う。 学校におけるいじめ防止対策委員会、町のいじめ防止推進委員会の定期開催を大切に、連携した取組を継続してほしい。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標2】一人一人を大切にした教育の実施 特別支援教育、人権教育など一人一人を大切にした教育を推進し、その能力や可能性の伸長と実践的態度を育成する取組を推進する。		
事務事業名	特別支援教育推進事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 特別支援学級の設置</p> <p><大山崎小学校> 5学級（知的：2学級、自閉症・情緒：3学級）</p> <p><第二大山崎小学校> 2学級（知的：1学級、自閉症・情緒：1学級）</p> <p><大山崎中学校> 2学級（知的：1学級、自閉症・情緒：1学級）</p> <p>② 通級指導教室の設置</p> <p><大山崎小学校> 2学級 ※1学級増</p> <p><第二大山崎小学校> 1学級</p> <p><大山崎中学校> 1学級 ※新設</p> <p>③ 個別の特別支援教育の充実</p> <p>特別支援教育支援員（町単費）の配置</p> <p><大山崎小学校> 6人</p> <p><第二大山崎小学校> 4人</p> <p>④ 大山崎町教育支援委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総会（年3回開催） ・ 就学前部会（年2回開催） ・ 在学部会（年2回開催） ・ 各幼稚園、保育所への参観（9月） ・ 保護者との就学指導についての協議 <p>※ 該当未就学児童の保護者に対し、教育支援委員会の審議結果を、経過も含めてより丁寧に説明し、適切な就学指導に繋げるため、就学先校長や事務局も参画して、保護者と十分な就学指導相談を実施した上で、就学先を決定した。（従来は所属機関の長のみ）</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育支援員の配置により町内小中学校の特別支援学級では、個々の児童生徒に個別に対応でき、学校生活面においても、情緒の安定につながった。また、学力向上にもつながってきている。 ・ 通級指導教室が大山崎中学校に新設、大山崎小学校に増設されたので、個に応じた指導をさらに充実していきたい。また、小学校と中学校の連携も深めていきたい。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校見解の児童の在籍や通常学級における特別な支援が必要となる児童生徒の在籍割合が多くなる中で組織的な支援体制を確立することが重要である。 		

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 特別な支援が必要とされる児童生徒に対して、一人一人を大切に、その能力や可能性の伸長に向け、障害の程度や状況に応じた教育が展開できるよう、各校に各種の特別支援学級や通級指導教室等が新設・増設され、適切な指導が行われており、成果も表れているように思われる。 • 特別支援教育支援員の配置は、対象児童生徒及び支援学級が計画に沿った学習活動ができ、個々の児童生徒の能力向上につながっていると考えられるため、支援員の専門性を照らし合わせながら、今後も効果ある適正な配置継続を望む。 • 保幼小の効果的かつ円滑な指導の観点からも、就学先の決定について協議が深められていることは評価できる。
---------------------	--

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標7】指導体制の充実 少人数授業やチームティーチングなどの指導方法、少人数学級や専科指導などの指導体制における工夫改善と指導力の向上を図るため、組織的な指導体制づくりを推進する。また、保幼小中の連携・接続を踏まえた教育体制を構築する。</p>																														
<p>事務事業名</p>	<p>適応指導教室事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>学校教育課</p>																												
<p>事業実績</p>	<p>① 大山崎町適応指導教室「たけのこ教室」について 【設置の目的】 小中学校に在籍する不登校児童生徒の自立を促し、学校への適応を図るため、適応指導教室「たけのこ教室」を設置する。 【設置場所】 大山崎町立中央公民館 【開室日時】 毎週火・水・金曜日（祝日・長期休業日を除く） 午前9時30分から正午まで 【指導体制】 適応指導教室指導員3名 教育相談員（公認心理師・臨床心理士・社会福祉士）3名</p> <p>② 取組内容 【運営会議】 第1回（4月12日） 指導内容、業務内容、環境整備、学校との連携、について 第2回（7月15日） 1学期の総括、2学期の運営、通室児童生徒の状況と今後の対応について 第3回（12月16日） 2学期の総括、3学期の運営について 第4回（3月10日） 今年度の総括、次年度の運営について 【小中連絡会】 運営会議後に各校を訪問し、運営会議の協議内容を各校の教育相談担当者 と共有、通室児童生徒や不登校児童生徒について共有した。 【入室（申込み）状況】 (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="443 1675 1366 1767"> <tr> <td>小1</td> <td>小2</td> <td>小3</td> <td>小4</td> <td>小5</td> <td>小6</td> <td>中1</td> <td>中2</td> <td>中3</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>14</td> </tr> </table> <p><基本的な指導内容> 朝の会、学習①、学習②、自由活動、終わりの会 <体験学習・社会見学></p> <table border="1" data-bbox="435 1899 1350 2080"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月14日（火）</td> <td>町体育館へ行こう</td> </tr> <tr> <td>7月5日（火）</td> <td>七夕～願い事を書こう～</td> </tr> <tr> <td>7月6日（水）</td> <td>小物入れを作ろう</td> </tr> </tbody> </table>			小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計	0	1	0	2	2	2	1	3	3	14	実施日	内容	6月14日（火）	町体育館へ行こう	7月5日（火）	七夕～願い事を書こう～	7月6日（水）	小物入れを作ろう
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計																						
0	1	0	2	2	2	1	3	3	14																						
実施日	内容																														
6月14日（火）	町体育館へ行こう																														
7月5日（火）	七夕～願い事を書こう～																														
7月6日（水）	小物入れを作ろう																														

	<table border="1"> <tr> <td>7月12日(火)</td> <td>町体育館へ行こう</td> </tr> <tr> <td>10月25日(火)</td> <td>木材を使った三連鉛筆立てを作り</td> </tr> <tr> <td>11月1日(火)～</td> <td>リースを作ろう</td> </tr> <tr> <td>11月8日(火)</td> <td>大山崎瓦窯跡公園に行こう</td> </tr> <tr> <td>11月18日(金)～</td> <td>消しゴムはんこ(落款)を作ろう</td> </tr> <tr> <td>12月13日(火)</td> <td>町体育館へ行こう</td> </tr> <tr> <td>2月1日(水)～</td> <td>アルバムの作り</td> </tr> <tr> <td>2月15日(水)</td> <td>町体育館へ行こう</td> </tr> <tr> <td>3月7日(火)</td> <td>町体育館へ行こう</td> </tr> </table>	7月12日(火)	町体育館へ行こう	10月25日(火)	木材を使った三連鉛筆立てを作り	11月1日(火)～	リースを作ろう	11月8日(火)	大山崎瓦窯跡公園に行こう	11月18日(金)～	消しゴムはんこ(落款)を作ろう	12月13日(火)	町体育館へ行こう	2月1日(水)～	アルバムの作り	2月15日(水)	町体育館へ行こう	3月7日(火)	町体育館へ行こう
7月12日(火)	町体育館へ行こう																		
10月25日(火)	木材を使った三連鉛筆立てを作り																		
11月1日(火)～	リースを作ろう																		
11月8日(火)	大山崎瓦窯跡公園に行こう																		
11月18日(金)～	消しゴムはんこ(落款)を作ろう																		
12月13日(火)	町体育館へ行こう																		
2月1日(水)～	アルバムの作り																		
2月15日(水)	町体育館へ行こう																		
3月7日(火)	町体育館へ行こう																		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ たけのこ教室での児童生徒の活動の状況や個別の支援の在り方について、各校と連携を図り教室運営にあたることができた。 ・ 通室にあたって、保護者や児童生徒本人との面談を通して、通室内容や通室日など、個々の状況やニーズに応じた通室の仕方を確認しながら通室を進めることができた。中学校と連携しながら進路指導の支援を実施することができた。 ・ 指導員や教育相談員による毎日の記録をもとに、毎月のたけのこ教室での出席状況や様子について報告書を作成し、児童生徒の頑張りや課題を各学校と共通認識することができた。また、学校でのケース会議や保護者面談に参加し、不登校改善に向けて連携することができた。 ・ 体験学習等、指導内容の選択の幅が広がり、更に充実した活動ができた。 																		
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人や保護者への働きかけの方法などについて、学校と共通理解のもとそれぞれの関係機関からのアプローチを検討していく必要があるため、計画的にケース会議を実施する必要がある。 ・ 学校との連携により申込みまでスムーズに進むが、家から出られない不登校の児童生徒が増えたため、教育指導員と担当指導主事で家庭訪問などのアウトリーチなどをしていく必要がある。 ・ 教育相談・カウンセリングの要望等が増え、アウトリーチなどの支援が必要な児童生徒も増える状況の中、複数で指導・支援にあたる体制が必要である。 																		
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「たけのこ教室」が不登校(傾向を含む)児童生徒の自立を促すため設置され、充実した指導体制のもと運営されていることは、教育機会の保障、不登校児童生徒の改善の観点からも、高く評価できる。 ・ 「たけのこ教室」の運営方法については、学校との連携による共通認識の共有、保護者や児童生徒との面談を通じた個々の状況やニーズに合った通級の仕方とその支援の在り方、専門員によるカウンセリングの実施など、児童生徒への指導内容や教室での取組を含め、適切な指導がなされていると思われる。 ・ 本年度は多くの体験学習や社会見学が実施され、参加生徒の意欲喚起につながったのではないかとと思われる。 ・ 課題認識に述べられているように、アウトリーチを踏まえた本人及び保護者へのはたらきかけの方法や体制についての協議を進められたい。 																		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標4】 健やかな体の育成と体力の向上 生き生きとたくましく生きるため、体育・スポーツ活動に親しむ習慣や望ましい食習慣など、健康的な生活を実践する態度を育成する。		
事務事業名	小中学校給食	担当部署	学校教育課
事業実績	① 学校給食実施 喫食児童数 849人（令和4年5月1日現在） ※ 米飯給食は週4回 ② 安心・安全な給食を実施するための衛生管理及び食中毒防止対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度から給食施設の監視指導を1施設につき2年に1回の実施方法に変更し、令和4年度は第二大山崎小学校を対象に実施した。 ・ 給食室害虫駆除、調理従事員等保菌検査等を実施した。 ③ 学校給食調理等業務委託実施（全小学校） ④ 中学校給食運営検討会議の開催（3回実施 令和5年度開始に向けた検討）		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍ではあったが、感染対策に十分配慮しながら、学校給食を実施することができた。 ・ 自校給食を安全に提供するために、学校給食衛生管理基準に準拠した施設整備に着手することができた。 ・ 府主催の衛生研修会が開催されたことにより、給食調理員・栄養教諭（職員）が研修に参加することができた。 ・ 中学校給食を令和5年度に開始するため、ソフト面の整備を進めるための会議の開催や学校給食調理等業務委託業者の選定を実施することができた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食衛生管理基準に適合させるため、順次、既存給食施設の改修に着手している。 ・ 給食費は値上げを行わず据え置いているが、物価高騰が著しいため、献立の創意工夫により質を維持することが、今後の課題である。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果に述べられている通り、コロナ禍での感染症対策をはじめ、物価高騰が著しい中で、地元食材の調達を含めメニューの作成から調理方法に至るまで、工夫ある給食実施がされていると思われる。（児童がいつもおいしく完食している場を見えています。） ・ 中学校での給食実施に向けた検討会議の実施により、令和5年度からの円滑な実施につながっている。 ・ 学校給食衛生管理基準を適合させるための設備の改修充実に着手されており、完成を期待している。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標8】教育効果をあげる教育環境の充実 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	小中学校給食施設整備事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 大山崎小学校給食施設について、第1期分の整備工事を実施するとともに、関係備品を調達した。 ② 中学校給食施設について整備工事を実施するとともに、関係備品を調達した。 ③ 中学校給食の開始に向けて、中学校給食運営検討会議を設置し、円滑な導入に向けた検討を実施した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大山崎小学校給食施設について、一部工期遅延は生じたものの、令和5年度2学期からの供用開始に向け、必要な整備工事を実施できた。 ・ 中学校給食施設について、令和5年度からの供用開始に向け、新施設を完成させることができた。 ・ 令和5年度からの中学校給食開始に向け、教職員の給食見学会の実施や保護者説明会を開催し、給食の円滑な導入に取り組むことができた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工期遅延を受け、各種事業において事前に必要な届出や許認可等を確認し、着実に進展する必要がある。 ・ 複数の大規模事業を同時進行するにあたり、綿密なスケジュール管理と執行体制の構築が必要である。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度からの中学校給食が、計画的かつ円滑に実施できていると思われる。 ・ 課題認識に述べられているように、給食施設整備基本実施設計に則り、進捗管理の適切な実施を期待する。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標5】信頼を高める学校づくりの推進 家庭や地域社会と連携・協働して、信頼に応える学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。		
事務事業名	教師力向上事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 大山崎町学力向上対策会議 全国学力・学習状況調査（小6、中3）を実施し、現状の把握、課題克服に向けた方策の検討や分析を各校で実施した。 さらに、乙訓学力向上対策会議において、分析結果や自校の実践・評価等を振り返り、子どもたちの学力状況を共通確認した。</p> <p>② 大山崎町小中連携事業 新型コロナウイルス感染症対策のため、「中学校授業公開」「小学校授業公開」「小中連携研修会」「中学校での体験授業」等の事業を中止したが、「部活動体験」については実施した。</p> <p>③ 町立小・中学校新規採用者等教職員研修会 【開催日】8月2日（火）9時から10時 【対象者】初任者及び今年度初めて常勤講師となった者 【参加者】3名 【内容】教育長の講話並びに町の指導の重点</p> <p>④ 町立小・中学校新規着任者教職員研修会 【対象者】令和2・3・4年度に初めて町立学校に着任した教職員 【開催日】8月2日（火）10時15分～12時30分 【参加者】19名 【内容】町の歴史と地域性についての講話と現地学習 （役場から大山崎瓦窯跡まで徒歩にて移動）</p> <p>⑤ 町立小・中学校教職員全体研修会 【対象者】大山崎町立小中学校教職員 【開催日】8月22日（月）13時30分～15時00分 【テーマ】「発達障がいへの理解と支援」 講師：関西学院大学 教授 菅原 伸康 氏 （京都府専門家チーム委員）</p> <p>⑥ 指導主事・教育委員学校訪問 「学校教育の重点」の趣旨の実現に向けた教育活動の充実を図るため、乙訓教育局と合同で指導主事学校訪問を全校で実施した。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度は指導主事と教育委員は別の日に実施した。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 「乙訓学力向上対策会議」および「大山崎町学力対策会議」等の場において、分析結果や自校の実践・評価等を振り返り、子どもたちの学力状況を共通確認することができた。 「町立小・中学校新規採用者等教職員研修会」は、教員としての使命感等を高める研修会となった。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「町立小・中学校新規着任者教職員研修会」は、令和2・3年度と中止となっていたが、今年度開催することができ、町の歴史等について学ぶ機会となった。 ・ 不登校の増加や発達課題のある児童生徒の対応などが課題となっている現在、「町立小・中学校教職員全体研修会」を開催することができた。 ・ 指導主事・教育委員学校訪問は、簡略化した形態であったが、各学校の状況が把握できた。
<p>課 題 認 識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携事業は今年度も中止したが、中1ギャップ等を考えるとコロナ禍収束後は現状も踏まえながら、小中連携に関わる行事等を開催していく必要がある。 ・ 町立小・中学校教職員全体研修会は、不登校の増加や発達課題のある児童生徒の対応などが課題となっているが、さらに効果的な研修となるよう内容を検討していく必要がある。 ・ 若手教職員が増えていく中、ミドルリーダー及び若手教職員の育成と授業力向上に向けた研鑽が今後の課題である。 ・ 町立小・中学校新規採用者等教職員研修会の趣旨を踏まえると、次年度も継続する必要がある。 ・ 町立小・中学校新規着任者教職員研修会は、町の歴史等を学ぶ良い機会ではあるが、夏季休業中の開催であるため、現地学習について再度検討していく必要がある。 ・ 町立小・中学校教職員全体研修会では、ICT端末の有効活用について学んだが、一方で不登校の増加や発達に課題のある児童生徒の対応などが本町の課題となっているため、効果的な研修となるよう次年度の内容を再検討していく必要がある。
<p>評 価 委 員 の 所 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査が実施でき、これらから見える課題を分析し、授業改善につなげたことは、成果に述べられている通りといえる。 ・ 「町立小・中学校新規採用者等教職員研修」や「町立小・中学校新規採用者教職員研修会」の実施は、成果に述べられているとおりであり、継続を望む。 ・ 教育の多様化、教職員の世代交代が進む中で、授業力をはじめとする教師力の向上やこれからの時代に対応できる指導力の育成、並びに人材育成などの研修を、「町立小・中学校教職員全体研修会」をはじめ、計画的に実施されることを願う。 ・ 課題認識に述べられているように、不登校生徒の学習サポートを含め、ICT端末の有効活用についての研修と機器の充実を含め実施を望む。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標6】安全安心で、いじめのない楽しい学校づくりの推進 安全な環境の中で、いじめのない楽しい学校生活が送れるよう、家庭・地域社会と連携した取組を推進する。		
事務事業名	子どもの安心・安全に関する事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 大山崎町子どもの移動経路・通学路安全推進会議の実施 【実施日】9月27日(火) 【参加機関】近畿地方整備局京都国道事務所、乙訓土木事務所、向日町警察署、見守り隊代表、PTA代表、校長会代表、保育所代表、乙訓教育局、建設課、経済環境課、総務課、福祉課、教育委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 従前の対策必要箇所の進捗状況の確認と新規対策必要箇所の選定をした(交通安全面:継続19箇所、新規3箇所)(防犯面:0箇所)。また、合同点検を行い、対策必要箇所の現場確認を実施した。 「大山崎町子どもの移動経路/通学路安全推進プログラム」には未就学児の移動経路も対象に含むため、幼稚園・保育所等の代表と福祉課の出席を依頼し、合同で検討した。 <p>② その他ソフト面の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学路の要所について、登下校の時間帯に交通指導員を配置した。 不審者情報などに基づき、青色パトロール車による防犯活動等を実施した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 通学路安全推進会議を開催し、対策必要箇所の状況把握や合同点検を通して、安全対策及び防犯対策に向けて関係諸機関と連携することができた。 会議での情報共有により、関係機関で具体的に危険箇所の対策が検討・実施されていることを確認できた。 円明寺地域や下植野地域における道路側溝の暗渠化による歩行空間の拡幅など、会議で取り上げている箇所の対策が進められていることが確認できた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した子ども安全見守り隊、PTAによる安全指導の継続的な取組、交通指導員の通年配置、青色パトロール車による防犯活動等、ソフト面では地域ぐるみで連携した安全・安心の確保が浸透しているが、道路事情の変化に対応した更なる取組が必要である。今後も関係機関の連携による継続的な確認と点検、対策の取組が必要である。 日常を通しての防災、防犯対応も含めた更なる安全教育も不可欠である。 危険箇所の選定後も、特に長期的な改善を目指している地点については、その認識を各機関が共有する必要がある、定期的な進捗確認と情報共有が必要である。 毎年、通学路安全推進会議を実施することで、町内道路状況の変化に合わせた新たな危険箇所の抽出、また必要な安全対策及び防犯対策を検討する必要がある。 中学校部活動後の下校時、小学校放課後児童クラブ後の下校時、小学校放課 		

	<p>後子供教室後の下校時について、冬季は日没後の時間帯となるため、関係機関で連携のうえ、地域での見守り等の安全対策が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 未就学児の移動経路については、通学路と重なるところも多いため、安全対策及び防犯対策にあたっては、関係機関と連携して検討・実施する必要がある。
<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 通学に関する安全対策は、子ども安全見守り隊をはじめ、交通指導員の配置、PTA の取組、教職員の登校指導など、通学路の安心・安全に向けた取組がきめ細かに行われていることは大いに評価できる。 • 近年の道路事情や交通量の変化、全国で発生した交通事故を鑑みて、登下校での交通指導員の配置をはじめ、児童生徒への事故・事件・災害等に対する防犯・防災の一層の指導徹底を願う。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標7】指導体制の充実 少人数授業やチームティーチングなどの指導方法、少人数学級や専科指導などの指導体制における工夫改善と指導力の向上を図るため、組織的な指導体制づくりを推進する。また、保幼小中の連携・接続を踏まえた教育体制を構築する。		
事務事業名	幼児教育振興事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 大山崎町私立幼稚園設備費補助金 町内私立幼稚園に設備、備品の購入に要する経費に対し補助金を交付した。 【実績額】210,000円 ② 大山崎町乙訓私立幼稚園協会研究補助金 乙訓市立幼稚園協会が実施する教育研究事業を実施するための経費を対象に補助金を交付した。 【対象】乙訓私立幼稚園協会 【実績額】65,000円 ③ 大山崎町私立幼稚園心身障害児教育振興補助金 心身障害児を保育する町内私立幼稚園に対し、心身障害児教育の振興と充実を目的とした補助金を交付した。 【対象園児】2名 【支給額】98,000円 ④ 大山崎町私立幼稚園健康診断補助金 町内私立幼稚園に園児の健康診断にかかる経費に対し補助金を交付した。 【実績額】71,248円 ⑤ 子育てのための施設等利用給付 私立幼稚園に通園する町内在住の児童に対し、満3歳の誕生日の前日から施設等の利用を「幼児教育・保育無償化」の対象として補助金を交付した。 【補助上限】25,700円/人 【新制度未移行幼稚園】園児229人 【総額】63,290,181円 ⑥ 大山崎町実費徴収にかかる補足給付事業 大山崎町実費徴収にかかる補足給付（給食費のうち副食費）の申請をした者に対し、年2回（4月～8月分、9月～3月分）補助金を交付した。 【対象園児】16人 【実績額】275,630円		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 私立幼稚園に通園する児童への幼児教育・保育無償化制度（上限額あり）により、保護者の負担軽減に繋がった。 補足給付事業として、給食費のうち、副食費（上限額あり）を第3子及び低所得者に対して補助することにより、更なる経済援助に繋げることができた。 各私立幼稚園補助金事業により、私立幼稚園の教育振興促進に繋げることができた。 		

<p>課題認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 国の基準で交付していた私立幼稚園就園奨励費補助金は、幼児教育・保育無償化により令和元年 10 月から子育てのための施設等利用給付に移行したが、園児も増加傾向にあり、町の負担額は引き続き大きい状況にある。 （参考）令和3年度子育てのための施設等利用給付 59,946,940 円 • 幼児教育・保育無償化については、子ども・子育て支援法に基づく制度であり、全国的に教育委員会から保育部署への事務の移管が行われ、乙訓地域においても保育部署に既に一本化されている。今後住民サービスや事務の効率化を考えるうえで、所管窓口の一本化が求められている。
<p>評価委員の所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児教育の充実のため、各種の補助金給付が行われているなど、成果に述べられている通り、幼児教育の振興が図られているが、保護者負担の軽減をさらに進めて幼児教育・保育無償化に向けて一層努めてほしい。 • 保幼小中連携を工夫し、「大山崎っ子できます10」などを生かした系統的な取組を充実されたい。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標8】教育効果をあげる教育環境の充実 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	学校施設・整備事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p><大山崎小学校> 運動場法面造成工事、管理棟教室一部仕様変更、空調設備機器（室内機）洗浄、緊急避難救助袋更新、消防設備不良箇所修繕、昇降口シャッター修繕</p> <p><第二大山崎小学校> 緊急避難救助袋更新、消防設備不良箇所修繕、通学路照明灯設置工事</p> <p><大山崎中学校> 旧コンピュータ教室仕様変更、ウォータークーラー設置、校内放送設備修繕、正門点字ブロック修繕、体育館ピアノ修繕</p> <p>※ いずれも概ね30万円以上の事業を記載</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の老朽箇所の改修を実施し、児童生徒が安全で安心して学ぶことのできる教育環境の整備を図ることができた。 各小学校については、緊急避難救助袋や消防設備といった優先度及び緊急度の高い設備の機能保持のための整備を適切に実施できた。 対象となる児童生徒が増加傾向にある通級指導教室の新增設に対応するために教室の仕様変更を実施した。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が安心して学校生活を送られるよう計画的な教育環境の整備に努めているが、町財政その他諸事情により先延ばしとせざるを得ない場合がある。 平成30年度に策定した「大山崎町学校施設長寿命化計画」（個別計画）に基づいた施設の維持管理を目指す一方で、いずれの学校も経年劣化により都度改修を必要とする箇所への対応が求められる。 多様化する社会的ニーズを捉え、施設機能の充実を検討する必要がある。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の老朽箇所改修が行われ、教育環境の整備が図られたことは評価できる。 校舎の築年数が50年に向かっている中、改修箇所が毎年必要になってくるのが予想されるので、機を逸することなく児童・生徒が安心・安全に過ごせる教育環境に整備に努めてほしい。 児童生徒が安全で楽しく過ごせ、充実した優れた教育環境を維持するため、予算の確保を含め、計画的な点検・保全・修理と社会的ニーズに応えた施設機能の充実を願う。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標8】教育効果をあげる教育環境の充実 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	GIGA スクール事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① GiGA スクール事業必要物品の購入 ICTを活用した授業環境をより高度化するため、必要物品を購入した。</p> <p>② ICT支援員の継続雇用 学校のICT環境整備を支援するICT支援員を令和3年度から引き続き雇用した。</p> <p>③ Chromebook の使用にかかる研修の実施 教職員を対象に Chromebook 使用にかかる研修を京都府と共に実施した。</p> <p>④ 学習系ネットワーク環境の確認 今後、当該ネットワークの通信量が更に増えることを想定した環境調査を実施し、一定のネットワーク環境が確保できていることを確認した。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 必要物品の購入により、授業環境の更なる充実が図れた。 ICT支援員を引き続き雇用することにより、各校のICT環境の課題解決を図ることができた。 Chromebook の使用にかかる研修を実施したことにより、教職員の理解を深めることができた。 学習系ネットワーク環境の調査を実施したことにより、一定の通信環境が確保できていることが確認できた。また、更なる環境強化に向けての課題も把握できた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の Chromebook の使用に関して、引き続き十分なフォローが必要である。 校務系、学習系のネットワークの安定供給及び更なる強化が必要である。 校務系サーバ及び端末の更新が必要である。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 校内の学習ネットワークの整備、一人一台の端末整備等 GIGA スクール事業に向けて迅速な対応ができたことは評価できる。 リモート授業、端末持ち帰り活用などICT活用を図るためのさらなる整備や教員研修などを充実させていくことが大切である。・学習ソフトの導入は、授業の効率化と児童生徒の学習理解と定着につながっている。 ICT支援員の配置継続は必要と思われる。 		

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標11】地域社会の教育力の向上 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもを健全にはぐくむ環境づくりの推進</p>					
<p>事務事業名</p>	<p>ときめきチャレンジ推進事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)</p>			
<p>事業実績</p>	<p>① 土曜日開催事業</p>					
		<p>実施日</p>	<p>内 容</p>	<p>場 所</p>	<p>参加 児童数</p>	<p>指導者・協力者</p>
	<p>1</p>	<p>6/11 (土)</p>	<p>消しゴムはんこ 作り体験</p>	<p>中央公民館 本館2階 講座室</p>	<p>19 人</p>	<p>JESCA日本レイサースタンプ協会 認定インストラクター 久保田 奈生子 氏</p>
	<p>2</p>	<p>7/16 (土)</p>	<p>バスケットボール 体験教室</p>	<p>大山崎小 体育館</p>	<p>26 人</p>	<p>スリーレグススポーツスクール 内藤 翔大 氏</p>
	<p>3</p>	<p>10/1 (土)</p>	<p>スター・ウォッチング 教室</p>	<p>第二大山崎小 体育館・ 運動場</p>	<p>24 人</p>	<p>ひげくま天体観測所 井本 彰 氏(日下 熊三 氏)</p>
	<p>4</p>	<p>10/22 (土)</p>	<p>立命館中学生・高校生と レクリエーションスポーツ を楽しもう!</p>	<p>大山崎小 体育館</p>	<p>30 人</p>	<p>立命館中学校・高等学校教員 澤井 久子 氏 保科 百音 氏</p>
	<p>5</p>	<p>11/12 (土)</p>	<p>漢字で遊ぼう! ～今、漢字が おもしろい～</p>	<p>中央公民館 別館 大研修室</p>	<p>16 人</p>	<p>漢字教育サポーター 山口 哲生 氏</p>
	<p>6</p>	<p>12/17 (土)</p>	<p>凧づくり& 凧あげ体験</p>	<p>大山崎小 体育館・ 運動場</p>	<p>28 人</p>	<p>ときめきチャレンジ推進 事業運営委員</p>
	<p>7</p>	<p>1/21 (土)</p>	<p>楽しいダンス 体験教室</p>	<p>第二大山崎小 体育館</p>	<p>22 人</p>	<p>ダンススペースRyG (リグ) 講師 YUMI 氏(松村 由美子 氏)</p>
	<p>8</p>	<p>2/11 (土・祝)</p>	<p>わくわく手芸 教室</p>	<p>中央公民館 本館2階 講座室</p>	<p>19 人</p>	<p>アトリエ はっば 高木 千佳 氏</p>
	<p>9</p>	<p>3/4 (土)</p>	<p>和太鼓体験 教室</p>	<p>第二大山崎小 体育館</p>	<p>13 人</p>	<p>和太鼓「つくどん」の皆さん</p>
<p>② 子どもの自習室事業 従来から実施していた中央公民館事業「子どもの自習室」(空き貸室を利用)と連携し、地域住民等の参画による放課後等の居場所づくり・学習支援として、学習支援員を配置し自習スペースを提供した。 【日時】令和4年8月12日(金)～18日(木)※15日(月)除く</p>						

	<p>午前 10 時～午後 4 時</p> <p>【場所】中央公民館 本館 1 階 実習室</p> <p>【対象者】小学生～中学生</p> <p>【利用者】 4 名</p>
成 果	<p>① 土曜日開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 人数制限、検温、消毒など新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で実施することができた。 土曜日の活動のみとなったが、延べ約 200 名の児童生徒が参加できた。 学校と地域の方の協力を得て、土曜日を活用した子どもの居場所づくりと地域ぐるみでの教育が実現できた。 令和 4 年度では、土曜日の午前中のみならず、夜の時間帯で「スター・ウォッチング教室」を開催するなど、従来の枠組みにとらわれず、新しい取り組みにチャレンジできた。 <p>② 子どもの自習室事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央公民館・地域・学校と協力して、放課後等の居場所づくりに取り組めた。
課 題 認 識	<p>① 土曜日開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、平日に小学校で開催ができなかった。このため、規模の縮小を余儀なくされている。 現在事務局が事業の準備等をしている状況であるが、今後も活動を広げる上で、より住民主体の運営を図れないかという点も検討する必要がある。 一部の教室では、定員の 3 倍ほどの応募があった。抽選により参加者を決定しているが、応募者に対して一部の児童しか参加できない結果となったため、著しく人気になった教室は、再度実施するなどの措置も検討する必要がある。 児童の要望に基づいて教室を企画することも検討する必要がある。 <p>② 子どもの自習室事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館事業に合わせてお盆の時期に実施したが、参加者数が少なく、学習支援員の活躍機会が限られてしまった。 開催時期について、夏休み初めに変更する等、参加者増へのテコ入れを検討する必要がある。
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味を引きそうな楽しい企画で工夫され、土曜日開催事業を毎月計画的に実施できたのは評価できる。 土曜日の活動は、児童生徒の参加しやすさや保護者同伴での参加などを鑑みても、利点は多いと思われる。 子どもの自習室事業への参加者が少なかったのは残念であるが、長期休業中の居場所づくりとして、さらに工夫して取り組まれることを期待したい。 地域学校協働活動推進に向けコーディネーターの配備など進めるよう努められたい。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標10】家庭の教育力の向上 家庭教育の自主性を尊重しつつ、教育の出発点である家庭の教育力を高めるための支援を推進する。		
事務事業名	家庭教育支援事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>① 家庭教育支援に関する講演会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。</p> <p>② 「親育ネット協議会」事業 地域の方と行政が協力して、家庭教育支援に取り組む「親育ネットおとくに」協議会に参画し、職員が年間を通じて家庭教育に関する会議やイベントの運営に参加した。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 「親育ネットおとくに」協議会では、子育て中の親に向けて「乙訓親まなびフォーラム」を開催し、115名の参加者があった。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援と重複する事業内容となるため、関係機関や民間の団体との連携する必要がある。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 「親育ネットおとくに」での多くの参加者を踏まえ、保育所、幼稚園、小・中学校での子育てに関わる相談や懇談会、学習会の他、PTA、民生児童委員、少年補導委員会などの関係機関と連携した取組を充実させ、町ぐるみで子育て支援を充実されたい。 		

令和4年度指導の重点における目標	<p>【重点目標12】人権教育・啓発・擁護活動の推進</p> <p>近年、いわゆる「人権三法」など、個別の人権問題に関する法整備が進んできていることや、新型コロナウイルス感染症にかかる人権問題など今日的な課題も踏まえ、一人一人の尊厳と人権が尊重される社会の実現に向け、人権意識を高め人権感覚を身に付ける取組を推進するとともに、実践につながる自発的な学習活動を促進する。</p>		
事務事業名	人権教育・啓発の推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>① 大山崎町人権教育夏季研修会 【日時】8月3日(水) 【演題】「スマホ・ケータイ人権教室～ネットトラブルから子どもの人権を守る～」 【場所】大山崎小学校 ランチルーム 【参加者】23名 【講師】NTTドコモ スマホ・ケータイインストラクター 斎藤 栄子 氏 大山崎町人権擁護委員 浅野 輝男 氏</p> <p>② 大山崎町人権教育冬季研修会 【日時】12月6日(火) 【演題】「このまちが好きだから～被差別の歴史をもつ地域に生まれて～」 【場所】中央公民館 大研修室 【参加者】27名 【講師】崇仁発信実行員会代表 藤尾 まさよ 氏</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 夏季研修会では、子どもを取り巻くICTにかかる今日的な人権問題について理解を深めた。 冬季研修会では、部落差別の実態をご自身の経験をもとにご講演いただき、同和問題への理解を深めた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が固定化されているため、人権の視点を勘案した参加者を広く募る必要がある。 		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の人権教育研修会は、SNS社会での問題や部落問題に関する内容など、時代のニーズに合ったテーマにて実施されており、実施時期も人権強化月間や人権週間に合わせ適切であると思われる。 社会教育関係団体を中心に参加者の呼びかけをされているが、対象を広げて参加者を増やすための工夫が望まれる。 すべての人が安心・安全で快適な生活をする上で、人権尊重の浸透を一層図るために、あらゆる場所、あらゆる機関、あらゆる機会を捉え、絶えず研修、学習を積み重ねられたい。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標9】生涯学習を推進する体制の充実 生涯にわたって多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯をとおして、理解し合い、学び合うまち」づくりをめざして、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
事務事業名	大山崎町成人式事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	令和5年大山崎町二十歳を祝う会 【日時】令和5年1月9日(月・祝) 【場所】大山崎町体育館 小体育室 【内容】開会の辞(司会アナウンス)、国歌・町歌斉唱、式辞、祝辞(文書配付)、二十歳代表者の誓いの言葉(1名)、恩師によるビデオレター上映、閉会の辞、集合写真 【対象】新二十歳 対象148名、出席98名、出席率66.2% ※ 令和4年4月の民法改正に伴い、成年年齢が18歳に引き下げられたが、引き続き二十歳を対象とする事業とした。 【記念品】①アサヒビール大山崎山荘美術館の招待券 ②今治製大山崎町章入りタオル 特定非営利活動法人 大山崎町地域活動支援センター「やまびこ」が封入 【スタッフ】前日4名、当日14名 【その他】フォトスポット、恋みくじ設置 ※ 誓いの言葉発表者は、中学校3年生当時の学年主任と担任に相談し、候補者(1名)に直接依頼 ※ 第2部実行委員については、募集したが応募がなかった。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 恩師によるビデオレターは、中学3年生時の担任(4名)に協力いただき、上映した結果、参加者に喜ばれた。 記念品「今治製大山崎町章タオル」の封入作業を大山崎町地域活動支援センター「やまびこ」に依頼して実施したことで、町内の障がい者の自立(就労)と社会参加を促進することができた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> フォトスポットについて、昨年好評であり、今回はグレードアップしたがあまり利用されていなかった。 第2部実行委員会を募集したが、応募者なかったため、今後の運営の在り方を含めて検討が必要である。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> フォトスポットを設けるなど、これまでのやり方も引き継ぎながら成人式を開催できたことは、成人への自覚とふるさと大山崎町への愛着心の形成という点からも、意義あるものであると思われる。 記念品の封入作業を町地域活動支援センター「やまびこ」に依頼して準備したことは、意義あるものであり、今後も継続されたい。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標9】生涯学習を推進する体制の充実 生涯にわたって多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯をとおして、理解し合い、学び合うまち」づくりをめざして、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
事務事業名	男女共同参画事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>① 「大山崎町第4次男女共同参画計画 みとめ愛プラン」を策定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3次男女共同参画計画の計画期間終了に伴い、社会情勢の変化や課題等を踏まえ、第4次計画を策定した。 ・ 計画の策定にあたり、大山崎町男女共同参画計画懇話会を設置し、9名の委員からご意見をいただいた。 ・ 町民の男女共同参画に関する意識や実態などを把握するため、約800名の町民（無作為抽出）に「大山崎町男女共同参画に関するアンケート調査票」を送付し、277件の回答を得た。 <p>② 男女共同参画講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度の講座については、「大山崎町社会教育関係団体等交流会」と合同開催とし、「地域における男女共同参画促進を支援するためのアドバイザー派遣事業」を活用し、助成金を受け開催した。 <p>【日時】令和4年12月10日（土）午前10時～12時 【演題】地域の埋もれし人財を社会とつなぐボランティア活動 ～「好き」や「得意」を活かす活動を考えよう～ 【場所】中央公民館 【講師】福知山公立大学 教授 谷口 知弘 氏</p> <p>③ 男女共同参画週間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役場庁舎1階ロビーにおいて、ポスターやチラシを掲示した。 ・ 大山崎町立中央公民館図書室において、男女共同参画及びジェンダーに関する特設コーナーを設置した。 ・ 男性の家事・育児等への参加を拡大することを目的とし、内閣府所管の「おとう飯はじめようキャンペーン」にかかる「おとう飯レシピコンテスト」を実施した。 ・ 「おとう飯レシピ」には5件の応募があり、オンラインによる投票を行って結果を町HPに掲載した。 ・ 国の相談・支援事業について町ホームページや広報誌に掲載した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内閣府男女共同参画局の助成金の活用、合同開催として事業を実施することにより、より充実した講演を実施することができた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大山崎町第4次男女共同参画計画に、新たに加わえた施策である「性的マイノリティ（LGBTQ）に関する理解促進」について、効果的な政策や取組の実施する必要がある。 		

評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none">• 「大山崎町第4次男女共同参画計画 みとめ愛プラン」を、アンケート調査も取りながら策定できたので、その実施に向けた新しい取り組みの実践を願う。• 男女共同参画講座や男女共同参画週間などを実施し、啓発に努めたことは評価できる。
-------------	--

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標11】地域社会の教育力の向上 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもを健全にはぐくむ環境づくりの 推進																																
事務事業名	放課後児童クラブ運営事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)																														
事業実績	放課後児童クラブの開設・運営（3クラブ6支援単位） なかよしクラブ1・2、ともだちクラブ、でっかいクラブ1・2・3 <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後児童クラブの利用者数や需要率は高い水準で推移しており、 本事業の社会的な役割は大きくなっている。 ・ 障がいのある児童についても、児童の状況を保護者と協議しながら、 指導員の加配体制を整えて受け入れた。 【入会対象児童】 町内在住の小学1年生～4年生 ※ 支援が必要な児童のうち、在籍実績がある児童については5、6年生でも入会可 【開所時間】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平日（月～金） 放課後から午後6時 ・ 土曜日 午前8時30分から午後6時 ・ 長期休業日（夏季を含む）及び振替休校日 午前8時30分から午後5時30分 【在籍児童数】（令和5年3月末現在） <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1)</td> <td style="width: 15%;">なかよしクラブ1</td> <td style="width: 10%;">.....</td> <td style="width: 10%;">43人</td> <td style="width: 60%;"></td> </tr> <tr> <td>2)</td> <td>〃 2</td> <td>.....</td> <td>44人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3)</td> <td>ともだちクラブ</td> <td>.....</td> <td>37人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4)</td> <td>でっかいクラブ1</td> <td>.....</td> <td>38人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5)</td> <td>〃 2</td> <td>.....</td> <td>38人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6)</td> <td>〃 3</td> <td>.....</td> <td>34人</td> <td style="text-align: right;">計 234人 (前年 206人)</td> </tr> </table>			1)	なかよしクラブ1	43人		2)	〃 2	44人		3)	ともだちクラブ	37人		4)	でっかいクラブ1	38人		5)	〃 2	38人		6)	〃 3	34人	計 234人 (前年 206人)
1)	なかよしクラブ1	43人																														
2)	〃 2	44人																														
3)	ともだちクラブ	37人																														
4)	でっかいクラブ1	38人																														
5)	〃 2	38人																														
6)	〃 3	34人	計 234人 (前年 206人)																													
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心、安全を最優先に、異年齢集団の中でさまざまな学びや遊び、日々の 生活の取り組みを通して、子どもたちの健全な育成を目指した保育を実施 した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、小学校が臨時休業とな った期間、社会的要請に応え、開所時間を長期休業日と同様に延長したう えで、感染症対策に取り組みながら継続して保育を実施した。 ※ 感染拡大防止のための臨時休所（ともだちクラブ：令和4年7月27日～7月30日）																																
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを取り巻く状況や保護者ニーズに柔軟に対応する保育内容を検討す る必要がある。 ・ 放課後児童支援員に欠員が生じており、募集を継続しているものの適当な 人材の応募がない状況が続いていることから、早急に補充する必要がある。 ・ 今後5年間程度は、放課後児童クラブの利用者数や需要率は増加もしくは 高い水準で推移する見込みであり、これに対応できる施設や放課後児童支 援員等を確保する必要がある。 																																

	<ul style="list-style-type: none"> • 国が策定した「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブと合わせて児童の受け皿とするため、放課後子ども教室を一体的な実施を検討する必要がある。
<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 成果に述べられているように、子どもたちの安全と健全な育成を目指した事業内容がされていると思われる。 • 働く保護者の増加と共に、放課後児童クラブの入所児童も増加傾向にあり、その必要性和役割が益々大きくなっており、保護者のニーズにも応える保育内容の検討、指導員体制などを整えながら充実した運営の継続を願う。 • また、就労していない家庭の児童にも、希望により過ごせる放課後の施設として、児童館などの設置も検討されたい。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会を増やすとともに、地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図り、学習・文化活動場面での町民の協働を推進する。		
事務事業名	公民館管理運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	公民館施設の管理運営、施設の維持管理 【利用状況】 中央公民館開館日数 306日 中央公民館利用件数 2,675件 中央公民館施設利用率 35.2% 中央公民館利用者数 30,729人 1日当たり(平均) 100人 【開館時間】 ・ 平日(火~土) 9時~21時30分まで(別館は21時まで) ・ 日曜・祝日 9時~17時まで(別館は16時30分まで) 【休館日】 ・ 毎週月曜、年末年始(12月28日から翌年の1月4日まで) 【その他】 ・ 一般使用団体は、2カ月前の1日から当日までに使用申請受付(サークル登録団体の使用申請は、3カ月前の20日から受付) ・ 使用申請後のキャンセルは、使用予定日から7日前までは8割返金、それ以降は返金しない。 ・ 使用申請後の変更は、使用予定日の3カ月後の末日まで変更可能。ただし1回のみ。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民の身近な社会教育施設としての役割を果たしている。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者に固定化、高齢化の傾向が見られるため、新規利用者や若年層の利用率向上を目指す必要がある。 ・ 今後の施設複合化(中央公民館、保健センター、老人福祉センター)を踏まえ、公民館主催行事の実施や、サークル活動、生涯学習環境の継続などについて、課題整理する必要がある。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民の身近な社会教育施設としての役割を果たしているが、中央公民館の一部施設は利用休止状態が続いており、その役割を十分に担えていない状態が続いていることは残念である。 ・ 施設の複合化を踏まえ、公民館主催行事やサークル活動が適切に活動できるよう努められたい。 		

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会を増やすとともに、地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図り、学習・文化活動場面での市民の協働を推進する。</p>				
<p>事務事業名</p>	<p>各種公民館講座事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (中央公民館)</p>		
<p>事業実績</p>	<p>① 各種公民館講座</p>				
		<p>実施日</p>	<p>内 容</p>	<p>参加 者数</p>	<p>講師</p>
	<p>1</p>	<p>6/24 (金)</p>	<p>シニアのための初めての スマホ体験講座</p>	<p>13 人</p>	<p>KDDI(株) 斎藤 卓也 氏</p>
	<p>2</p>	<p>9/18 (日)</p>	<p>市民が輝くまちづくり講座</p>	<p>20 人</p>	<p>川戸 徳郎 氏 朗読サークルオアシス・OKK・MUSIC 本部 氏、辻本 氏</p>
	<p>3</p>	<p>10/18 (火) 他6日間</p>	<p>はじめてのスマートフォン 体験型講習会 10/18、10/20、10/26、 12/1、12/2、12/14、12/15</p>	<p>延べ 100 人</p>	<p>株式会社 HONKI</p>
	<p>4</p>	<p>10/30 (日)</p>	<p>大人のための太極拳体験講座</p>	<p>12 人</p>	<p>徐 言偉 氏</p>
	<p>5</p>	<p>11/19 (土)</p>	<p>干支絵付け教室</p>	<p>23 人</p>	<p>田村 博文 氏</p>
	<p>6</p>	<p>11/25 (金) 他2日間</p>	<p>手作りワークショップ 11/25、11/26、11/27</p>	<p>32 人</p>	<p>井口 博 氏 中元 司 氏</p>
	<p>7</p>	<p>11/26 (土)</p>	<p>型染め教室</p>	<p>10 人</p>	<p>井口 博 氏</p>
	<p>8</p>	<p>11/27 (日)</p>	<p>錫(すず)の細工教室</p>	<p>9 人</p>	<p>中元 司 氏</p>
	<p>9</p>	<p>12/17 (土)</p>	<p>国宝・千利休の待庵 ペーパークラフト教室</p>	<p>16 人</p>	<p>大山崎町文化協会</p>
	<p>10</p>	<p>1/28 (土)</p>	<p>シニアのためのヨガ講座</p>	<p>14 人</p>	<p>向井 氏</p>
	<p>11</p>	<p>2/18 (土)</p>	<p>エンディングノートで 始める終活</p>	<p>13 人</p>	<p>和田 誠三 氏(行政書士) 西 博三 氏(行政書士)</p>
<p>12</p>	<p>2/26 (日)</p>	<p>オカリナ体験講座</p>	<p>12 人</p>	<p>島崎 愛子 氏</p>	

	13	3/21 (火・祝)	はじめての料理体験講座	8 人	森 かおる 氏
	14	3/25 (土)	認知症予防講座	23 人	鈴木 元 氏 (医師) 和来隊
② 図書室事業					
	1	4/23 (土)	人形劇とブックフェア	70 人	ひとり人形劇まる 中島 香織 氏
成 果	<ul style="list-style-type: none"> 多くの町民の学習意欲・仲間づくりに応えるために必要な施策であり、今年には町民がみずから講師となる講座等も企画実施し、効果をもたらしていると考えられる。 新たな取り組みとして、DX時代に向けたシニア向けスマホ講座を、民間事業者の協力を得て開催し、対象世代から好評を得ることができた。 				
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習機会の提供に向けた取組が必要であり、生涯学習の重要性をアピールし、更なる講座等の充実を図っていく必要がある。 				
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> 公民館講座事業について、対象者を絞った内容で整理され、計画実施されたことは、効果ある事業となっていると思われる。 町民が自ら講師となる講座等の企画実施がされたことも評価でき、今後の取組の拡充を期待したい。 大人を対象とした講座の拡大や、老人大学など、町民による講座の開設、運営などを支援する体制の拡充を図りたい。 				

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標11】地域社会の教育力の向上 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもを健全にはぐくむ環境づくりの推進				
事務事業名	子ども体験教室事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)		
事業実績	① 子ども体験事業				
		実施日	内 容	参加者数	講師
	1	7/27(水) 8/3(水)	ジャグリング体験教室	9人	シンクロシティ(プロジャグラー)
	2	7/28(木) 8/4(木) 8/11(木)	子ども陶芸教室	中止	*新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	3	8/6(土)	親子で作ろう 手作りメロディーキット	16人	上野山 和仁 氏
	4	8/12(金)~ 8/18(木)	子どもの自習室	4人	サポーターを配置
	5	8/19(金)	トールペインティング 教室	20人	坂本 依真理 氏
	6	8/23(火)	電池手作り教室	18人	マクセル(株)京都事業所
	7	1/22(日)	子ども防災キャンプ	4人	中川 久徳 氏 ほか
	8	2/23(木・祝)	クルマづくり体験教室	14人	ダイハツ工業(株) 京都工場駐在
成 果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部中止となった事業があったが、参加人数を制限した中で、多くの事業を実施できた。 				
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも新しい教室を開拓し、地域で子どもを健全にはぐくむ環境づくりを推進する必要がある。 				
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象とした公民館講座と放課後子ども教室の内容を調整し、子ども体験事業として年間計画を立てて実施できたことは評価できる。 一部中止もあったが、今年度は7教室実施できたことは良かった。 「子どもの自習室」の企画は、その参加人数から鑑みて、実施時期や方法について再考されてはどうか。 子どもを対象とした体験事業を実施する体制の拡充を図りたい。 				

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会を増やすとともに、地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図り、学習・文化活動場面での町民の協働を推進する。		
事務事業名	文化のつどい事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	① 「文化のつどい」を開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の学習の拠点である中央公民館を活用し、地域における文化振興と生涯学習の推進を図った。 【日時】 11月2日(水)～11月8日(火) 正午まで 【場所】 中央公民館1階通路 外ガラス(掲示) 【内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育関係団体等の取り組みや町教育委員会生涯学習課の事業等について、掲示物(ポスター)にて住民に紹介・広報した。 ・ 生涯学習課の掲示として、生涯学習・スポーツ振興係、文化芸術係、中央公民館、歴史資料館の各機関が掲示を実施した。 ・ 社会教育関係団体等の掲示として、大山崎町文化協会、大山崎ふるさとガイドの会、三つ和母子会、大山崎町少年補導委員会、大山崎町青少年健全育成協議会、大山崎町更生保護女性会、竹の子文庫、おぐら文庫、大山崎えごまクラブの各団体が掲示を実施した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度から、新型コロナウイルス感染症対応として事業の手法を変更しているが、結果として資材の搬入や会場当番等の役割分担が不要となったうえ、掲示場所がまとまり、閲覧性が向上した。 ・ 公サ連祭り、あかりちゃん祭りなど他団体との開催時期を合わせることで閲覧者の増加を図ることができた。 ・ 外ガラスに掲示しているため、期間中であればいつでも(閉館していても)掲示物を見ることができるといった利点もある。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文化のつどい」を単独開催した場合の集客力に限界があるため、コロナ禍以前は「あかりちゃん祭(大山崎町社会福祉協議会イベント)」に合わせて実施していたが、イベントに団体担当者の配置を要する等、協力団体にとっても負担が大きいため、今後とも実施方法は見直す必要がある。 ・ 中央公民館の建て替え工事期間中には、代替場所を確保する必要がある。 ・ 現状、社会教育団体を中心となっているため、事業名のとおり、文化的な活動をしている団体(公民館や長寿苑のサークル、中学校の文化部等)を巻き込むことも検討する必要がある。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文化の集い」は、展示方法を工夫しながらも開催できたことは評価できる。 ・ 社会教育関係団体等の取り組みや、生涯学習課の事業を紹介する掲示物は、役場1階ロビーなどを利用することも考えられるのではないかと。 ・ また、閲覧者に配布する印刷物等は、「大山崎の生涯学習」といったリーフレットや冊子等にまとめ、町民に配布することも検討されたい。 		

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">• 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模や形態を変えて行われてきたが、閲覧者の増加など好結果につながった点もあるように見える。• 本事業は、町民の様々な活動の発表の場であり交流の場でもあるので、実施形態や方法を模索しながら、今後も継続して実施されたい。 |
|--|--|

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会を増やすとともに、地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図り、学習・文化活動場面での住民の協働を推進する。		
事務事業名	公サ連まつり事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	第20回 公サ連まつりの開催(公サ連との共催) 【日時】11月5日(土)・6日(日) 【場所】中央公民館本館・別館 ※にぎわい創出のため、長寿苑、大山崎町社会福祉協議会と連携し、以下の事業と同日開催とした。 ・11月5日(土) 長寿苑文化祭 ・11月6日(日) 長寿苑文化祭・町社協あかりちゃんまつり OKK・MUSIC企画 ハロウィン仮装コンテスト		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響から、3年ぶりに開催できた。 特に6日は同日開催事業の効果もあり、多くの方が来場された。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 今後の施設複合化(中央公民館、保健センター、老人福祉センター)を踏まえ、「公サ連まつり」をはじめとする団体主催事業などについても、新施設での維持継続が課題である。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 公サ連まつりが、3年ぶりに開催できたことは評価できる。 長寿苑文化祭、町社会福祉協議会の「あかりちゃん祭」等の行事を日程調整され、連携した事業として取り組めたことも効果的であった。 今後、「文化の集い」と「公サ連まつり」の期間を重ねることで、さらに集客を増やすことができると思われるので、検討されたい。 		

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会を増やすとともに、地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図り、学習・文化活動場面での市民の協働を推進する。</p>																				
<p>事務事業名</p>	<p>図書室運営事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (中央公民館)</p>																		
<p>事業実績</p>	<p>中央公民館図書室運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の貸出、返却、発注、受入、整理、保管義務 ・ 図書の貸出に伴う予約、リクエスト、調査・相談業務 ・ 貸出対象者＝町内に在住または在勤の者 ・ 冊数＝1人6冊まで（試験的に8冊） ・ 貸出期間＝2週間まで <p>【開室日時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火曜～金曜＝午前9時30分～午後5時 (貸出は午後4時45分) ・ 土曜、日曜、祝日＝午前9時30分～午後4時30分 (貸出は午後4時15分) <p>【休室日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月曜日（月曜日が休日に当たる場合も同じ） ・ 月の最終木曜日（ただし、最終木曜日が休日のときはその前日） ・ 年末年始（12月27日～1月4日） ・ 特別整理期間 <p><図書室運営状況></p> <table border="1" data-bbox="475 1330 1024 1697"> <tr> <td colspan="2">開室日数</td> <td>287日</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">蔵書数</td> <td>一般書</td> <td>24,349冊</td> </tr> <tr> <td>児童書</td> <td>15,290冊</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,797冊</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41,436冊</td> </tr> <tr> <td colspan="2">貸出者数（延数）</td> <td>21,425人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">貸出冊数（延数）</td> <td>75,005冊</td> </tr> </table> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府図書館総合目録ネットワークシステム「ケイ・リブネット」と提携している。 ・ 読みたい本が見つからないときは、 予約・リクエスト可能 他の図書館からの借用が可能 パソコンを利用して検索可能 			開室日数		287日	蔵書数	一般書	24,349冊	児童書	15,290冊	その他	1,797冊	合計	41,436冊	貸出者数（延数）		21,425人	貸出冊数（延数）		75,005冊
開室日数		287日																			
蔵書数	一般書	24,349冊																			
	児童書	15,290冊																			
	その他	1,797冊																			
	合計	41,436冊																			
貸出者数（延数）		21,425人																			
貸出冊数（延数）		75,005冊																			

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別予算を編成し、絵本を中心とした児童書を重点的に購入した。 ・ 開室時間を 10 時から 9 時 30 分に変更し、利便性の向上を図った。 ・ 試験的に貸出冊数を 1 人 8 冊までに増やした。 ・ これらの取組により、貸出者数・貸出冊数が前年度比で、大きく伸ばすことができた。
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の複合化計画では、図書室の規模拡大方針であることから、施設規模等に応じた運営方法について準備・検討を行なう必要がある。 ・ 図書館法に規定する「図書館」となった場合についても、運営方法などについて課題整理が必要である。
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵書の購入にあたって、児童書を重点的に購入したことは評価できる。 ・ 今後も購入ジャンルの重点化を図りながら蔵書の充実を図られたい。 ・ 開室時間や貸出冊数の変更により、利便性が向上したと思われる。 ・ 現在の施設規模では蔵書数に限度があるので、京都府図書館総合目録ネットシステムとの連携により、図書室にない本の予約・リクエストでの利用を大いに図ることは意義が大きい。 ・ 学校が行っている図書ボランティア（読み聞かせやブックトークを担当するボランティア）を図書室にも取り入れ、活動の充実を図ってはどうか。

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが心身共に健康な生涯を実現できるよう、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力・競技力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。</p>																																				
<p>事務事業名</p>	<p>体育館管理運営事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)</p>																																		
<p>事業実績</p>	<p>大山崎町体育館運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育室等の管理・貸出業務 ・ 貸出備品等の管理業務 ・ 施設管理及び修繕業務 																																				
	<p><利用状況></p>																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月別</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3,908</td> <td>3,488</td> <td>3,309</td> <td>5,816</td> <td>3,105</td> <td>4,766</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>148</td> <td>126</td> <td>153</td> <td>147</td> <td>124</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">前年度</td> <td>2,351</td> <td>0</td> <td>2,599</td> <td>4,077</td> <td>1,968</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>111</td> <td>0</td> <td>144</td> <td>144</td> <td>89</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	人数	3,908	3,488	3,309	5,816	3,105	4,766	件数	148	126	153	147	124	133	前年度	2,351	0	2,599	4,077	1,968	0	111	0	144	144	89	0
	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月																														
	人数	3,908	3,488	3,309	5,816	3,105	4,766																														
	件数	148	126	153	147	124	133																														
	前年度	2,351	0	2,599	4,077	1,968	0																														
		111	0	144	144	89	0																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月別</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3,651</td> <td>4,324</td> <td>4,870</td> <td>3,798</td> <td>3,931</td> <td>3,653</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>215</td> <td>116</td> <td>108</td> <td>106</td> <td>105</td> <td>131</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">前年度</td> <td>3,427</td> <td>3,009</td> <td>2,782</td> <td>2,385</td> <td>2,350</td> <td>3,508</td> </tr> <tr> <td>128</td> <td>127</td> <td>112</td> <td>121</td> <td>130</td> <td>172</td> </tr> </tbody> </table>			月別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	人数	3,651	4,324	4,870	3,798	3,931	3,653	件数	215	116	108	106	105	131	前年度	3,427	3,009	2,782	2,385	2,350	3,508	128	127	112	121	130	172
	月別	10月	11月	12月	1月	2月	3月																														
人数	3,651	4,324	4,870	3,798	3,931	3,653																															
件数	215	116	108	106	105	131																															
前年度	3,427	3,009	2,782	2,385	2,350	3,508																															
	128	127	112	121	130	172																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>合計人数</th> <th>合計件数</th> <th>利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本年度</td> <td>48,619</td> <td>1,612</td> <td>74.8%</td> </tr> <tr> <td>前年度</td> <td>24,456</td> <td>1,278</td> <td>67.2%</td> </tr> </tbody> </table>				合計人数	合計件数	利用率	本年度	48,619	1,612	74.8%	前年度	24,456	1,278	67.2%																							
	合計人数	合計件数	利用率																																		
本年度	48,619	1,612	74.8%																																		
前年度	24,456	1,278	67.2%																																		
<p><種目別利用状況> (人数と件数)</p>																																					
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>種目</td> <td>フェンシング</td> <td>バスケットボール</td> <td>バレーボール</td> <td>バドミントン</td> <td>卓球</td> <td>体操</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>8,284</td> <td>8,151</td> <td>8,104</td> <td>7,350</td> <td>3,601</td> <td>3,177</td> </tr> <tr> <td>種目</td> <td>バドミントン</td> <td>卓球</td> <td>バレーボール</td> <td>フェンシング</td> <td>体操</td> <td>バスケットボール</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>362</td> <td>246</td> <td>196</td> <td>177</td> <td>156</td> <td>121</td> </tr> </tbody> </table>			種目	フェンシング	バスケットボール	バレーボール	バドミントン	卓球	体操	人数	8,284	8,151	8,104	7,350	3,601	3,177	種目	バドミントン	卓球	バレーボール	フェンシング	体操	バスケットボール	件数	362	246	196	177	156	121							
種目	フェンシング	バスケットボール	バレーボール	バドミントン	卓球	体操																															
人数	8,284	8,151	8,104	7,350	3,601	3,177																															
種目	バドミントン	卓球	バレーボール	フェンシング	体操	バスケットボール																															
件数	362	246	196	177	156	121																															
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>種目</td> <td>武道</td> <td>マーチング</td> <td>エアロビクス</td> <td>テニス</td> <td>その他</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2,019</td> <td>1,926</td> <td>518</td> <td>218</td> <td>5,271</td> <td>48,619</td> </tr> <tr> <td>種目</td> <td>武道</td> <td>エアロビクス</td> <td>テニス</td> <td>マーチング</td> <td>その他</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>111</td> <td>46</td> <td>29</td> <td>28</td> <td>140</td> <td>1,612</td> </tr> </tbody> </table>			種目	武道	マーチング	エアロビクス	テニス	その他	合計	人数	2,019	1,926	518	218	5,271	48,619	種目	武道	エアロビクス	テニス	マーチング	その他	合計	件数	111	46	29	28	140	1,612							
種目	武道	マーチング	エアロビクス	テニス	その他	合計																															
人数	2,019	1,926	518	218	5,271	48,619																															
種目	武道	エアロビクス	テニス	マーチング	その他	合計																															
件数	111	46	29	28	140	1,612																															

	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> • 京都国体（昭和 63 年）でフェンシング会場となり、それ以降、各種のフェンシング大会、競技会の会場として全国的に名が知られている。 • 新型コロナウイルスの感染拡大も収まりつつあり、利用者が前年度に比べて増加した。3月からは利用の人数制限も撤廃している。 • 令和 2・3 年度にバスケットゴールを 2 対更新したことにより、バスケットボール競技での利用者は前年度の 5.8 倍と大幅に増加した。また、バレーボール、フェンシングにおいてもほぼ倍増している。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルスの感染拡大も収まりつつあり、利用者が前年度に比べて倍増した。 • 1 年を通じ、年間調整の段階で土・日曜日はほぼ利用申込があった。
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍以前の利用水準を回復し、さらなる拡大による稼働率向上を目指していく必要がある。 • 平日の午後 3 時～同 6 時の時間帯には空きが多いため、当該時間帯の利用確保のための方策が必要である。（大山崎中学校の部活動は無料にて利用可能としている。）
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> • 新型コロナウイルス感染拡大の収束に伴い、体育館利用者が増加したことは好ましい。 • バスケットゴールの更新が利用者の増加に繋がっていることは喜ばしく、他の施設更新や修繕管理を、計画的に実施するよう願う。 • 平日の午後の時間帯に空きが多いというならば、体育指導員を増員するなどの体制充実を図り、中学校部活動の利用だけでなく、放課後子どもスポーツ教室などの事業展開を検討してはどうか。 • 指定管理制度の導入は、他の自治体でも取り入れているが本町でも検討の余地があるのではないかと。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが心身共に健康な生涯を実現できるよう、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力・競技力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	大山崎町天王山カップ 少年少女フェンシング大会の開催	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	第5回大山崎町天王山カップ少年少女フェンシング大会 【日時】令和4年12月3日(土) 13時～ 小学5・6年生の部 12月4日(日) 9時半～ 小学3・4年生の部 15時～ 小学1・2年生の部 【会場】大山崎町体育館 【概要】感染症対策のため、カテゴリごとに完全入れ替え制で実施 【内容】競技種目＝フルーレ個人戦 小学生1・2年生の部(混合)＝59人 小学生3・4年 男子の部＝77人 女子の部＝45人 小学生5・6年 男子の部＝73人 女子の部＝48人 参加者合計＝302人 カテゴリ毎に1位～3位を表彰		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策を行い、3年ぶりに開催することができた。 感染症対策のため第4回大会までより規模を縮小し実施したため、これまで煩雑で危険性の高かった駐車場運営が改善された。 これまで時間を要していた申込受付業務について、業者委託することで、業務効率化を図ることができた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が全国から集まることに加え、用具等の荷物が多いことから、車での来場が多く、駐車場が不足する。 審判員等の試合にかかるスタッフ、会場整理等の運営にかかるスタッフの人数が絶対的に足りない。 他にも本大会に関する課題は多く、大会を継続していくには適正な規模や運営方法を検討する必要がある。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 大山崎町天王山カップ少年少女フェンシング大会を、新型コロナウイルス感染対策を行い、3年ぶりに開催できたことは評価できる。 スタッフの不足や駐車場問題をはじめ、大会に関わる課題については、認識に述べられている通り色々と考えられるが、継続を念頭にして課題解決を図られたい。 小学校におけるフェンシング教室や、町のイベントなどでフェンシング体験の場を設けるなどして、フェンシングを体験する機会を工夫していくことも検討されたい。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが心身共に健康な生涯を実現できるよう、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力・競技力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	スポーツ振興事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	① 町民体育祭（町主催） 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 ② 町体育協会主催事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 町民ソフトバレーボール大会 ・ 町スポーツ少年団交流大会 ・ 新春ジョギング大会 いずれも新型コロナウイルス感染症の影響により中止。 ③ 町民スポーツフェスティバル 自治会による運営が困難となっている町民体育祭の今後を見据え、体育協会やスポーツ推進委員の協力のもと、町内在住・在勤者を対象にニュースポーツ体験を中心とした事業を実施した。 【日時】令和5年2月5日（日） 【場所】大山崎町立大山崎中学校 【内容】バブルサッカー、ストラックアウト、キックターゲット、モルック、ポッチャ等 【参加者】139名（役員除く） ④ 京都府民総合体育大会への参加 9競技 バドミントン、軟式野球、サッカー、駅伝競走、バレーボール女子、バスケットボール男・女、ボウリング、グランドゴルフ ⑤ 町スポーツ少年団の育成 9単位団 登録者=250名（団員172名 指導者78名）		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民体育祭については、新型コロナウイルス感染症の影響により、4年連続での中止となった。 ・ 町民体育祭に代わって「町民スポーツフェスティバル」を開催し、スポーツに親しむ機会を確保できた。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「町民スポーツフェスティバル」については、開催時期や広報手段に課題が残った。 ・ 誰もが気軽に参加できる（楽しめる）種目、イベント等の開催を検討し、より一層のスポーツ振興を図る必要がある。 ・ 各種大会、イベントにおいて、年々参加者数が減少しており、特に町民体育祭については、4年連続で中止となっている。今後開催の方向性等について検討を進める必要がある。 		

評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none">町民体育祭、町民ソフトボール大会、町民グラウンドゴルフ大会、町民ソフトバレーボール大会、町スポーツ少年団交流会など、例年の行事がほとんど中止となったことは残念であるが、「町民スポーツフェスティバル」の開催によって、町民がスポーツに親しむ機会をできたことは評価できる。各種大会やイベントへの参加者の減少は残念であり、参加者確保に向けた内容や在り方を検討されたい。
-------------	---

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが心身共に健康な生涯を実現できるよう、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力・競技力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	スポーツ体験教室事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	スポーツ体験教室事業 <ul style="list-style-type: none"> 本事業への参加からスポーツ少年団等への加入につなげることを目的に、指導を町内のスポーツ施設で活動しているスポーツ少年団などの8団体に依頼して実施した。 【実施種目】7種目 軟式野球、新体操、ドッジボール、バスケットボール、フェンシング、ソフトボール、剣道(軟式野球のみ2団体) 【申込者数】延べ69人(実人数:49人) (内訳) 軟式野球(前期):6人 軟式野球(後期):3人 新体操:5人 ドッジボール:22人 バスケットボール:13人 フェンシング:9人 ソフトボール:3人 剣道:8人 特別編として下記の2種目を実施した <フットサル体験会>(岩崎運動広場リニューアル記念) 【日時】令和4年5月18日(水) 【参加者数】11人 <モルック体験・交流会>(大山崎町スポーツ推進委員指導) 【日時】令和5年3月25(土) 【参加者数】14人 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に引き続き、8団体(7種目)の実施に加え、特別編の2種目を実施することができた。 当該事業に参加した児童が指導団体に加入しているとの報告を受けており、事業の趣旨に沿った結果を得られている。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団などの団体がない種目については、指導者の不足や加入できる団体がないことから、その後の活動(団体加入など)につなげるのが難しく、今後種目の増加が見込みにくい。 ニュースポーツなど、スポーツがあまり得意でない子どもなども参加できる教室の実施により、参加者数を確保する必要がある。 		

<p>評価委員の見所</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 種目の増加や、スポーツがあまり得意でない子どもの参加勧誘など、整理すべき課題はあるが、成果に述べられているように、効果も挙げられている事業と思われる。 • 町のスポーツ少年団の加入率が府内でも高いことの強みを生かし、少年団の加入を経験した人の中からスポーツ推進委員が育っていくようなシステムを構築されたい。 • スポーツ体験教室は、スポーツ少年団と連携協力して取り組んでいくことは大切であるが、グラウンドゴルフや、ニュースポーツなどの開催も実施し、生涯スポーツの機運を高めていくことにも取り組まれたい。
----------------	---

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが心身共に健康な生涯を実現できるよう、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力・競技力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。														
事務事業名	スポーツ団体育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)												
事業実績	町体育協会加盟団体に対する指導・助言を実施した。 <スポーツ団体>4団体 <table border="0" data-bbox="438 645 1260 817"> <tr> <td>・ バレーボール連絡協議会</td> <td>4チーム</td> <td>69名</td> </tr> <tr> <td>・ バドミントン協会</td> <td>5チーム</td> <td>89名</td> </tr> <tr> <td>・ グラウンド・ゴルフ協会</td> <td>1チーム</td> <td>43名</td> </tr> <tr> <td>・ 軟式野球連盟</td> <td>11チーム</td> <td>134名</td> </tr> </table> ※ 令和4年度からゲートボール協会が人数減少のため、脱退された。 <スポーツ少年団>9単位団 250名			・ バレーボール連絡協議会	4チーム	69名	・ バドミントン協会	5チーム	89名	・ グラウンド・ゴルフ協会	1チーム	43名	・ 軟式野球連盟	11チーム	134名
・ バレーボール連絡協議会	4チーム	69名													
・ バドミントン協会	5チーム	89名													
・ グラウンド・ゴルフ協会	1チーム	43名													
・ 軟式野球連盟	11チーム	134名													
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 府民総合体育大会市町村対抗競技への参加をはじめ、それぞれのスポーツ団体主催の事業も数多く開催されている。 ・ スポーツ少年団は、8種目、9単位団が加盟し、これは京都府内でもトップクラスの加入率であり、小さい町ではあるが、子どものスポーツ活動は盛んである。 ・ 各団体が練習や試合で町体育館、学校体育施設、桂川河川敷公園を利用している。 														
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加盟団体数の減少傾向が見られるため、維持・拡大させる方策を検討する必要がある。 ・ 加盟会員の高齢化が進みつつある。 ・ 少子化の影響か、スポーツ少年団員の緩やかな減少傾向が見られる。 ・ それぞれの団体を運営する代表者や、技術指導者のさらなる資質の向上を図るため、研修会や講習会等への参加を推進する必要がある。 														
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ団体の加入減少や高齢化など心配な面も出てきているが、町民が高齢になっても健康で元気に過ごせるように、スポーツを楽しんだり親しんだりすることが重要である。 ・ そのためにもスポーツの裾野を広げ、誰もが気軽に参加できる行事の企画を期待したい。 ・ 健全なスポーツの在り方のためにも、指導者・代表者への指導・助言と研修が行われていることは評価でき、今後も、更なる向上が図れる研修会を実施されたい。 														

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが心身共に健康な生涯を実現できるよう、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力・競技力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。</p>																																																																				
<p>事務事業名</p>	<p>スポーツ推進委員育成事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)</p>																																																																		
<p>事業実績</p>	<p>スポーツ基本法に基づくスポーツ推進委員を委嘱し、各種事業を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ推進委員は、町スポーツ推進委員協議会を構成し、月1回定例会にて「サタデーナイト」事業の内容を検討し、町民のスポーツ振興を進めている。 ・ 近畿、府、乙訓のスポーツ推進委員研修会等への積極的な参加により個々の指導力の向上を図っている。 <p>【スポーツ推進委員「サタデーナイト」参加状況】</p> <table border="1" data-bbox="379 860 1350 1041"> <thead> <tr> <th>月別</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども</td> <td>51</td> <td>49</td> <td>43</td> <td>66</td> <td>21</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>大人</td> <td>35</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>27</td> <td>12</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>86</td> <td>79</td> <td>78</td> <td>93</td> <td>33</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="379 1084 1350 1265"> <thead> <tr> <th>月別</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども</td> <td>67</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>41</td> <td>33</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>大人</td> <td>30</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>31</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>97</td> <td>46</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>64</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="568 1308 1366 1400"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>子ども</th> <th>大人</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年度</td> <td>541</td> <td>296</td> <td>837</td> <td>約70</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※ 大人→高校生以上</p> <p>＜実施種目＞ 卓球、バドミントン、バスケットボール、ソフトバレーボール モルック、スリータッチボール、ワンバウンドふらばーバレー 等</p> <p>※ スポーツ体験教室事業の1種目として、令和4年京都府スポーツ推進委員研究大会や乙訓地域スポーツ指導者研修会（乙訓スポーツ推進委員連絡協議会）で実施した競技「モルック」の指導を担当した。</p>			月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	子ども	51	49	43	66	21	57	大人	35	30	35	27	12	22	計	86	79	78	93	33	79	月別	10月	11月	12月	1月	2月	3月	子ども	67	27	33	41	33	53	大人	30	19	17	14	31	24	計	97	46	50	55	64	77	年度	子ども	大人	合計	平均	4年度	541	296	837	約70
月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月																																																															
子ども	51	49	43	66	21	57																																																															
大人	35	30	35	27	12	22																																																															
計	86	79	78	93	33	79																																																															
月別	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																															
子ども	67	27	33	41	33	53																																																															
大人	30	19	17	14	31	24																																																															
計	97	46	50	55	64	77																																																															
年度	子ども	大人	合計	平均																																																																	
4年度	541	296	837	約70																																																																	
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月1回土曜日の18時30分から「サタデーナイト」を定期的を開催することで、町民のスポーツ振興に寄与した。 ・ ニュースポーツも積極的に取り入れ、体験の幅を拡大することができた。 ・ 研修で実施した競技を、「サタデーナイト」やスポーツ体験教室事業にすぐに活用することができた。 																																																																				

課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 「サタデーナイト」の継続開催及び種目の更なる検討が必要である。 委員の年齢層がだんだん高くなっており、20代～40代の委員を増員することで若返りを図る必要がある。
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 成果に記載の通り、毎月一回土曜日に行われている「サタデーナイト」は、町民のスポーツ振興に寄与していると考えられる。 町民のスポーツ振興において、スポーツ推進委員が事業への企画・運営に携わる意義は大きく、今後もスポーツ推進委員の増員に努められたい。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが心身共に健康な生涯を実現できるよう、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力・競技力の向上が図られる環境づくりに努め、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	各種スポーツ施設開放事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	各種スポーツ施設開放事業を実施した。 【施設別の利用件数/利用者数】 <桂川河川敷公園> (野球場、テニスコート、陸上競技場) 利用件数 94件/利用者数 2,541名 (前年度 106件/3,078名) <岩崎運動広場> 利用件数 293件/利用者数 1,349名 (前年度 131件/616名) <町内小中学校体育施設> 利用件数 1,161件/利用者数 24,139名 (前年度 629件/12,979名)		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 桂川河川敷公園、岩崎運動広場、特に小中学校体育施設については、市民のスポーツ活動の中心的な役割を果たしている。 岩崎運動広場はコートの整備を行い、テニスおよびフットサルでの利用が令和5年1月から可能となった。市民の河川敷公園テニスコート利用者が岩崎運動広場での活動に移っていると考えられる。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 桂川河川敷公園において、テニスコートは4面あるが、雨期の冠水被害の影響で、利用可能な状態であるのは1面のみである。立地上、やむを得ない側面はあるが、継続的な利用に向けて対策を検討する必要がある。 		
評価委員の見所	<ul style="list-style-type: none"> 岩崎運動広場の整備は、市民のスポーツ振興に繋がっており、桂川河川敷公園(テニスコートの整備、グラウンドゴルフ場の新設など)の拡充も検討されたい。 名神高速道路や京都縦貫道の高架下などにおいて、公園やスポーツ広場としての活用を目指すなど、さらなる活動の場づくりが望まれる。 今後も、スポーツ振興くじ助成金などを積極的に活用し、スポーツ施設の拡充を図られたい。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	<p>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護・活用</p> <p>天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を受け継ぐ。</p>		
事務事業名	歴史資料館運営事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<p>歴史資料館運営事業</p> <p>【年間入館者総数】 4,024名(開館日数290日)</p> <p>【図録等販売実績】 554,540円</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症予防のための休館日の設定はなく、通常の開館日数となった。ただし、感染症対策のための「三密」回避、講演会等における事前申込み、定員設定などは継続して進めた。 歴史街道推進協議会「西国街道部会」では、令和4年度も新型コロナウイルス感染症のため、講演会等の行事・イベントは中止した。ただし、来年度(令和5年度)に向けて、次回テーマ「西国街道の道標」に基づく、講演、シンポジウム(キックオフイベント)の開催を計画した。 歴史資料館ホームページの中の「ズームアップ OYAMAZAKI」において、館蔵文化財の紹介に努めた。 地元小学校における地域学習においても資料館が積極的に使用された。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数については、新型コロナウイルス感染の影響が次第に克服され、以前の入館者を取り戻しつつある。ただし、近年の団体客による観光の方向性が変化しつつあり、その入館申込みは減少傾向である。今後も多様な入館の在り方を模索していきたい。 館の図録や報告書等の販売促進に力点を置き、文化財啓発につなげた。今後も、この傾向を維持していく必要がある。 ホームページを有効に活用し、個別文化財の解説や過去の企画展示図録などを紹介し、感染症対策を取りつつ、入館者数の維持や図録等の販売につなげたい。 		
評価委員の 見所	<ul style="list-style-type: none"> 歴史資料館の入場者数増加や、図録等販売実績が前年を上回るなど、運営努力が評価できる。 ホームページで館蔵文化財の紹介や、地元小学校の地域学習での活用なども引き続き取り組まれたことも効果的である。 地元小学校が資料館を積極的に使用されたことは、地元の学習資材の活用と、ふるさと大山崎町への愛着心への高揚の点でも良いことであり、引き続き取り組まれない。 		

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護・活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を受け継ぐ。</p>																																	
<p>事務事業名</p>	<p>各種企画展等事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (歴史資料館)</p>																															
<p>事業実績</p>	<p>① 歴史資料館各種企画展の開催</p> <table border="1" data-bbox="395 633 1385 1205"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日</th> <th>内 容</th> <th>参加者数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6月7日(火) ～6月26日(日)</td> <td>趣味から設計へ ー加賀正太郎と山荘・ ゴルフ場建設ー</td> <td>321人</td> <td>小企画展</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8月9日(火) ～8月28日(日)</td> <td>第24回 「平和のいしすえ」展</td> <td>151人</td> <td>小企画展</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>8月11日(木)</td> <td>大山崎尋常高等小学校 忠魂碑</td> <td>30人</td> <td>建設フィルム 上映会</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10月22日(土) ～11月27日(日)</td> <td>古絵図の魅力 ー地図で旅する大山崎ー</td> <td>958人</td> <td>第30回 企画展</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3月7日(火) ～3月21日(火)</td> <td>社家の古文書 ー『中田家文書』を読むー</td> <td>253人</td> <td>小企画展</td> </tr> </tbody> </table> <p>② その他 町内文化財の修理、館蔵古文書の目録作成</p>					実施日	内 容	参加者数	備考	1	6月7日(火) ～6月26日(日)	趣味から設計へ ー加賀正太郎と山荘・ ゴルフ場建設ー	321人	小企画展	2	8月9日(火) ～8月28日(日)	第24回 「平和のいしすえ」展	151人	小企画展	3	8月11日(木)	大山崎尋常高等小学校 忠魂碑	30人	建設フィルム 上映会	4	10月22日(土) ～11月27日(日)	古絵図の魅力 ー地図で旅する大山崎ー	958人	第30回 企画展	5	3月7日(火) ～3月21日(火)	社家の古文書 ー『中田家文書』を読むー	253人	小企画展
	実施日	内 容	参加者数	備考																														
1	6月7日(火) ～6月26日(日)	趣味から設計へ ー加賀正太郎と山荘・ ゴルフ場建設ー	321人	小企画展																														
2	8月9日(火) ～8月28日(日)	第24回 「平和のいしすえ」展	151人	小企画展																														
3	8月11日(木)	大山崎尋常高等小学校 忠魂碑	30人	建設フィルム 上映会																														
4	10月22日(土) ～11月27日(日)	古絵図の魅力 ー地図で旅する大山崎ー	958人	第30回 企画展																														
5	3月7日(火) ～3月21日(火)	社家の古文書 ー『中田家文書』を読むー	253人	小企画展																														
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 6月の小企画展では、加賀正太郎のゴルフ場建設について紹介した。彼が建設した茨木カンツリーゴルフ場とも情報交換を行なった。 「平和のいしすえ」展では、おもに戦前、戦中における大山崎町の学校と郵便について取り上げた。また、昭和10～11年(1935～36)における大山崎尋常高等小学校建設の8ミリフィルム上映会を実施し、忠魂碑建設との関わりを探った。 企画展では、近世大山崎における古絵図を展示し、かつての地域の景観などを考える契機とした。有名な「摂津国絵図」から、大山崎の田地、河川などの地図まで、幅広く公開、展示した。また、古絵図を取り上げ、かつての街道の散策なども実施した(現地見学会)。 生涯学習ボランティアグループ(大山崎ふるさとガイドの会)に対して、新しい展示資料を説明できるよう、企画展に関する学習会を実施した。新たに修得された知識等を活用できるようになり、説明内容に幅ができた。 大山崎における古地図として「社家の古文書『中田家文書』、町人の古文書『福田家文書』などを整理、調査した。こうした成果を小企画展の内容に反映させた。また、古文書講座を実施し、地域住民と『中田家文書』のくずし字を読解した。 																																	

	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民と協力し、大山崎小学校 150 周年の前年において、小企画展を実施し、戦前、戦中における学校の歴史の掘り起こしに努めた。これによって、地域住民の方々に、令和 5 年度が 150 周年であることを喚起した。 古絵図のみに絞った展示を実施し、天王山中の失われた地名などを復元した。また淀川沿岸の堤防や小河川なども取り上げた。
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による影響が緩和されつつあるが、効果的な展示の開催にあたり、情勢に適した感染対策を講じていく必要がある。 近年、対外的な問い合わせ、レファレンスが増加するなか、町内の地域史料の発信を継続的に進め、大山崎町の歴史や文化の理解を更に広げることが必要である。
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の企画展も好評であったことが参加者数からもうかがい知れる。 大山崎小学校創立 150 周年を見据えての小学校建設の 8 ミリフィルムの上映会や小企画展は、タイムリーな取組として評価できる。 生涯学習ボランティアグループ（大山崎ふるさとガイドの会）の活動は、町内外にわたり、町が誇るボランティア団体であり、その支援も継続してお願いしたい。 地域の学習資材を活用した歴史学習が一層展開できるよう、また、小中学生のへの関心が高まる企画を期待したい。

<p>令和4年度 指導の重点 における目標</p>	<p>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護・活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を受け継ぐ。</p>																																											
<p>事務事業名</p>	<p>講座・講演会事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (歴史資料館)</p>																																									
<p>事業実績</p>	<p><各種啓発事業の開催></p> <table border="1" data-bbox="395 633 1385 1514"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日</th> <th>内 容</th> <th>参加者数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10月8日(土)</td> <td>明治の地籍図から見る 大山崎町の姿</td> <td>39人</td> <td>連続講演会① 「古絵図研究 の可能性」</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月30日(土)</td> <td>古絵図に見る遺跡認識 と『椿井文書』</td> <td>48人</td> <td>連続講演会② 「古絵図研究 の可能性」</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>11月3日(木)</td> <td>近世絵図の世界 —日本図から村図まで—</td> <td>39人</td> <td>歴史講演会① 企画展 「古絵図の魅力」</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>11月19日(土)</td> <td>大山崎の街道と小道を 歩く</td> <td>41人</td> <td>現地見学会</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11月26日(土)</td> <td>境界における都市と 地図表現</td> <td>50人</td> <td>歴史講演会② 企画展 「古絵図の魅力」</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>3月11日(土)</td> <td>天正10年の千利休と 茶室</td> <td>67人</td> <td>連続講演会① 大山崎時代の秀吉</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>3月18日(土)</td> <td>大山崎と豊臣・徳川氏</td> <td>70人</td> <td>連続講演会② 大山崎時代の秀吉</td> </tr> </tbody> </table>					実施日	内 容	参加者数	備考	1	10月8日(土)	明治の地籍図から見る 大山崎町の姿	39人	連続講演会① 「古絵図研究 の可能性」	2	10月30日(土)	古絵図に見る遺跡認識 と『椿井文書』	48人	連続講演会② 「古絵図研究 の可能性」	3	11月3日(木)	近世絵図の世界 —日本図から村図まで—	39人	歴史講演会① 企画展 「古絵図の魅力」	4	11月19日(土)	大山崎の街道と小道を 歩く	41人	現地見学会	5	11月26日(土)	境界における都市と 地図表現	50人	歴史講演会② 企画展 「古絵図の魅力」	6	3月11日(土)	天正10年の千利休と 茶室	67人	連続講演会① 大山崎時代の秀吉	6	3月18日(土)	大山崎と豊臣・徳川氏	70人	連続講演会② 大山崎時代の秀吉
	実施日	内 容	参加者数	備考																																								
1	10月8日(土)	明治の地籍図から見る 大山崎町の姿	39人	連続講演会① 「古絵図研究 の可能性」																																								
2	10月30日(土)	古絵図に見る遺跡認識 と『椿井文書』	48人	連続講演会② 「古絵図研究 の可能性」																																								
3	11月3日(木)	近世絵図の世界 —日本図から村図まで—	39人	歴史講演会① 企画展 「古絵図の魅力」																																								
4	11月19日(土)	大山崎の街道と小道を 歩く	41人	現地見学会																																								
5	11月26日(土)	境界における都市と 地図表現	50人	歴史講演会② 企画展 「古絵図の魅力」																																								
6	3月11日(土)	天正10年の千利休と 茶室	67人	連続講演会① 大山崎時代の秀吉																																								
6	3月18日(土)	大山崎と豊臣・徳川氏	70人	連続講演会② 大山崎時代の秀吉																																								
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講演会については、非接触型体温計による計測、アクリル板等による飛沫拡散の防止、間隔をあけた座席配置などを実施し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。質問用紙による質疑応答などに転換し、不要な密集や飛沫を避けるよう工夫した。 企画展において古絵図を展示し、地元の景観、特に天王山や淀川との関わりを実感させた。現地見学会では、史跡や文化財とつなげて理解する場を提供した。 今回、久しぶりに現地見学会を再開した。来館者や地元住民の間では、現地を訪れたいという要望が強く、今後も充実した事業を計画したい。 常に新しい史料の発見や研究成果の進展に着目し、講演会において紹介、共有化する機会をつくった。これらによって、地元大山崎町に対する愛着心が 																																											

	<p>育まれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他市町村における研究成果を踏まえることで、当該期の大山崎町の歴史や文化をより客観的に見据えることができるようになった。特に歴史街道推進協議会の西国街道部会において、沿道の博物館・資料館と連携して道標調査を実施し、西国街道パンフレットにその情報を反映させた。 文化財の調査や、その保管する環境調査を実施することによって、新しく確認された地元資料を良好な状態で保存し、これを後代に伝え、展示・公開を進めることができる。また、将来の企画展・小企画展にも活用できる。
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策以降の住民ニーズのなかで、より効果的な文化財啓発の方策が求められている。 講演会参加者の高い要望に応えられるよう、質疑応答の充実をさらに進めたい。 以前実施していた、食事、講義付の現地見学会なども改めて模索していきたい。 小中学生の関心を高めるテーマを、さらに追求していく必要がある。これには、子どもたちの習熟度に応じた説明や理解の促進を実施することが肝要である。 寄贈を受けた地元の古文書等を調査し、その目録を作成することが必要である。それを契機に内容を紹介し、公開・活用していくことにつなげたい。また、町内から流出した古文書や古絵図の蒐集にも可能な限り努めたい。
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に留意しながら、講座・講演会を実施し、多くの参加者を得ていることや、現地見学会を再開し、工夫して実施したことは評価できる。 学習会、遺跡巡り（ウォークラリー）、体験教室などへの参加証を作成し、町ぐるみで郷土の歴史や伝統文化への関心を高めることを検討してはどうか。

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護・活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を受け継ぐ。		
事務事業名	有形文化財の保護	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	国庫補助による修理 <ul style="list-style-type: none"> 重要文化財（建造物）聴竹居（旧藤井厚二自邸）茶室ほか2棟保存修理強化対策事業 令和4年4月1日～令和5年1月31日（株）竹中工務店 文化資源活用事業費補助金「重文 聴竹居（旧藤井厚二自邸）本屋ほか2棟重要文化財（活用環境強化）事業」 令和4年4月1日～令和5年3月31日（株）竹中工務店 国指定文化財維持管理費補助金 令和4年4月1日～令和5年3月31日 離宮八幡宮、白玉手祭来酒解神社、宝積寺、妙喜庵、大念寺 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 国、府と連携し、地元の文化財の保護に努めた。 聴竹居では、複数年にわたる茶室や庭園の修理、復元などが完了し、今後の有効な活用が期待される。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも台風や地震による国宝、重要文化財の被災について、情報の共有化を図るとともに、所有者との密な連絡が必要である。 今後、修理を求められている寺社もあり、引き続き対処していく必要がある。 未指定文化財に対する修理や保護についても検討を進める必要がある。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡の把握、調査、保存は地道な事業ではあるが、今後とも国庫補助を受けながら確実に継続されたい。 未指定文化財の修理や保護についても、財源の問題等検討しながら取り組まれることを期待する。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	<p>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護・活用</p> <p>天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を受け継ぐ。</p>		
事務事業名	文化財調査事業（原因者）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	<p>① 長岡京跡右京第 1273 次調査 調査対象面積 390㎡ 12月9日（金）～3月31日（金） 宅地造成に伴って実施し、中世の溝群と奈良時代の整地層、柱根及び土坑群を確認した。</p> <p>② 出土遺物整理作業 4月1日（金）～3月31日（金） 令和3年度に発掘調査で出土した遺構・遺物の整理作業を実施した。 （長岡京跡右京第 1242-2 次調査、長岡京跡右京第 1257 次調査）</p> <p>③ 『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第 68 集刊行</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第 68 集は、長岡京跡右京第 1242-2 次調査、長岡京跡右京第 1257 次調査の各成果を報告した。 特に長岡京跡右京第 1242-2 次調査では長岡京期から平安時代にかけての溝を検出しており、『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第 68 集で長岡京の条坊の施工実態について検討した。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 開発に伴う発掘調査において、遺構・遺物を適切に記録し、遺跡の実態を町の歴史に反映させることが重要である。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な遺構の発掘調査は大事な事業であり、調査後の遺跡をどう活用していくかも検討しながら着実に事業を進められたい。 本調査事業は、計画的な進行、調査結果の資料化や刊行物としての発刊、などの成果が表れており、今後も継続・発展を期待する。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護・活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を受け継ぐ。		
事務事業名	文化財調査事業（国庫補助）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	① 大山崎町第80次遺跡確認調査 2月20日（月）～3月31日（金） 史跡大山崎瓦窯跡の範囲を確認するため、遺跡確認調査を実施した。 ② 史跡大山崎瓦窯跡北側隣接地の地形実測 3月17日（金）～3月30日（木） 大山崎瓦窯C群瓦窯（7号窯・8号窯）・町道の西側の地域（3,500㎡）の地形測量を実施した。 ③ 『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第67集を刊行		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 大山崎町第80次遺跡確認調査では、瓦窯に関係する土地利用の痕跡は、認められなかった。 史跡大山崎瓦窯跡北側隣接地の地形実測では、現況微地形を記録し、今後の調査区設定の際の基礎となる成果を得た。 『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第67集では、第80次遺跡確認調査、史跡大山崎瓦窯跡北側隣接地の地形実測を報告した。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 国庫補助事業の各事業において、遺跡の範囲を的確に把握し、保存等の取組に活かすことが重要である。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 大山崎瓦窯跡のオープン時、セレモニーでお茶会を催したように、鳥居前古墳も含めて様々な催しの場として活用されていくことを期待したい。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護・活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を受け継ぐ。		
事務事業名	埋蔵文化財等普及啓発事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	① 山崎廃寺ミニシンポジウム 「淀川流域における道昭と行基～古代仏教の社会事業と都城制～」 10月22日(土) 参加者 一般住民 約50名 ② 「文化のつどい」ポスター展示 11月2日(水)～11月8日(火) ③ スライドでみるおとくへの発掘 3月5日(日) 参加者 一般住民 約51名 ④ リーフレット「山崎廃寺～道昭から行基へ～」を刊行		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町民の中でも歴史に興味を持つ方は多いことから、発掘調査において成果があった場合、町のPRを含めて報告することは効果的であった。 ・ スライドでみるおとくへの発掘は、史跡大山崎瓦窯跡の調査と史跡整備を報告した。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡大山崎瓦窯跡や史跡乙訓古墳群 鳥居前古墳など、文化遺産の広報普及とそれを活かしたまちづくり構想が求められている。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内の取組だけではなく、乙訓2市1町が連携して文化芸術の発展を図っていくことも検討されたい。 		

令和4年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護・活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を受け継ぐ。		
事務事業名	文化事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	乙訓文化芸術祭(乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会) 【日時】6月5日(日) 【主催】乙訓文化芸術祭実行委員会・乙訓地方中学校校長会 【会場】長岡京記念文化会館 ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客での開催となった。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 乙訓文化芸術祭は、大山崎町・長岡京市・向日市内の中学校8校の吹奏楽部が集い、日頃の練習の成果を発揮する良い機会となった。 		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 多面的な角度から、各種のニーズに応えることが望まれている。 		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> 文化財に関心を持っている町民が多いことを活かし、発掘調査などの成果を報告したり、町内外に広報していくことは大切であり、今後も工夫して取り組まれない。 		